

令和4年度「まちかどコメンテーター」

アンケート調査結果

<抜粋版>

鹿児島市

・第5回

1. 新型コロナウイルスの影響によるライフスタイル（食生活）の変化について（資源政策課）
2. 性の多様性について（人権推進課）
3. コロナによるコミュニティの活動及び意識の変化について（地域づくり推進課）

目 次

I	調査の概要.....	1
II	新型コロナウイルスの影響によるライフスタイル（食生活）の変化について.....	4
III	性の多様性について.....	11
IV	コロナによるコミュニティの活動及び意識の変化について.....	20

I 調査の概要

1. まちかどコメンテーターの概要

(1) まちかどコメンテーターとは

市民の皆様「まちかどコメンテーター」になってもらい、市民目線の意見・提言を聴取するとともに、市民のニーズを把握し、市政運営の参考とさせていただくものです。

また、アンケートを通じて、市民の皆様の市政への関心・興味を深めていただくことも目的としています。

(2) まちかどコメンテーターの選定方法

市内に住むか通勤・通学する 18 歳以上の方を対象とし、一般公募及び住民基本台帳から無作為抽出した市民 2,200 人への就任依頼において、応募・承諾いただいた方により構成しています。

(3) 任期

令和 4 年 6 月 1 日～令和 5 年 5 月 31 日

(4) 人数

340 人（第 5 回調査実施時点）

(5) 所管課

市民局 市民文化部 市民協働課

2. 第5回調査の概要

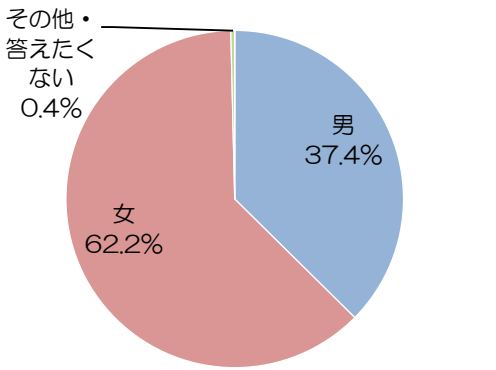
(1) 調査概要

テーマ/担当課	新型コロナウイルスの影響によるライフスタイル（食生活）の変化について	資源政策課
	性の多様性について	人権推進課
	コロナによるコミュニティの活動及び意識の変化について	地域づくり推進課
調査期間	令和4年12月2日～12月23日	
回答率	79.4% (270人)	

(2) 回答者属性

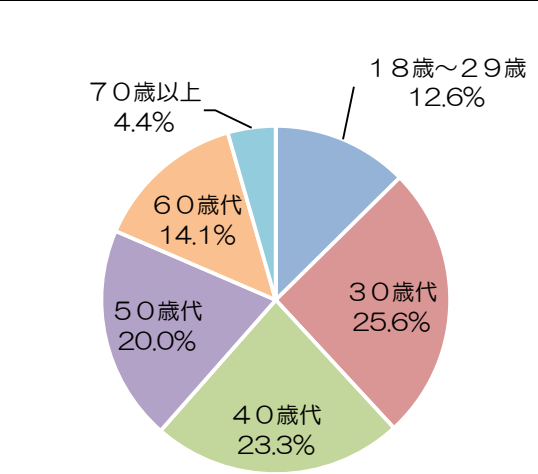
① 性別

選択肢	回答数	割合
男	101	37.4%
女	168	62.2%
その他・答えたくない	1	0.4%
無回答	0	0.0%
サンプル数	270	100.0%

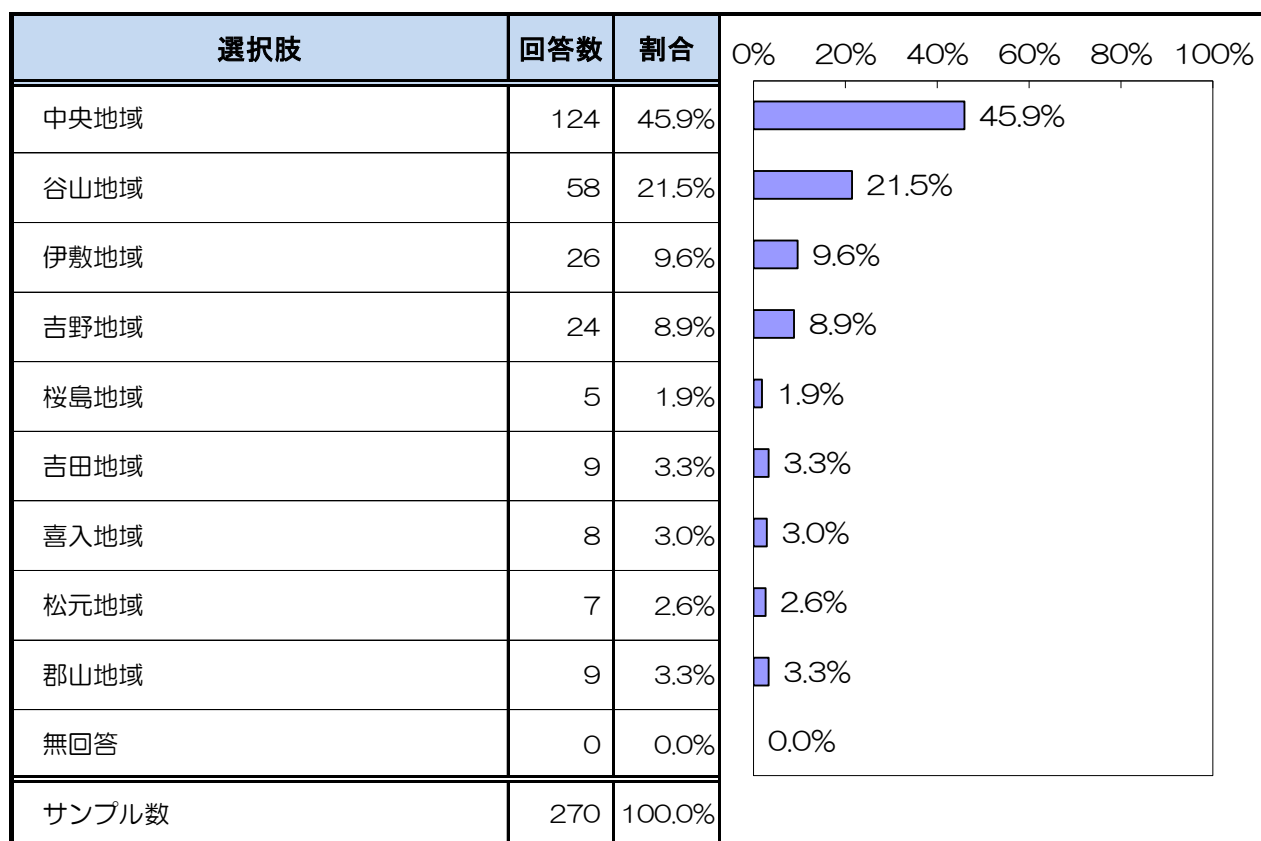


② 年代

選択肢	回答数	割合
18歳～29歳	34	12.6%
30歳代	69	25.6%
40歳代	63	23.3%
50歳代	54	20.0%
60歳代	38	14.1%
70歳以上	12	4.4%
無回答	0	0.0%
サンプル数	270	100.0%



③ 居住地



3. 報告書上の留意点

- ・ 構成比は小数点第2位以下を四捨五入して表示しているため、合計が合わない場合があります。
- ・ 複数回答可の質問の構成比の合計は100%を超えることがあります。
- ・ 設問文や選択肢等の表記において、原文より変更している場合があります。

II 新型コロナウイルスの影響によるライフスタイル (食生活)の変化について

1. 調査の目的

私たちの日常生活に伴い生じるごみの処理に当たり、本市では 3R(※)の推進による減量化・資源化をはじめ、廃棄物のエネルギー源としての利用をさらに推進することにより、資源が循環し、環境負荷が低減される循環型社会の構築を目指しています。

このアンケートは、新型コロナウイルスの影響によるライフスタイル(食生活)の変化について調査するものです。

2. 調査結果を受けて担当課(資源政策課)からのコメント

市民の皆さんの新型コロナウイルスの影響によるライフスタイル(食生活)の変化について、伺うためにアンケートを実施したところ、多くのご回答をいただきまして、誠にありがとうございます。

「家庭ごみマイナス 100 g」を目標に掲げている本市では、家庭ごみ量が新型コロナウイルスの影響により想定外となったことや、依然としてコロナ禍の終息が予測できないことから、目標期限を 7 年 3 月まで延長し、減量化・資源化に取り組んでいるところです。

この度の調査結果では、「飲食店で昼食を食べることは(ほとんど)なかった」がコロナ禍前の 35.6%から 54.1%へ、「飲食店で夜間の会食を行うことは(ほとんど)なかった」がコロナ禍前の 36.3%から 73.7%へ増えるなど、新型コロナウイルスの影響により、昼夜ともに、飲食店で食事をする機会が減り、持ち帰り(テイクアウト)や出前(デリバリー)、自炊といった食事形態へ移行している実態が明らかとなりました。

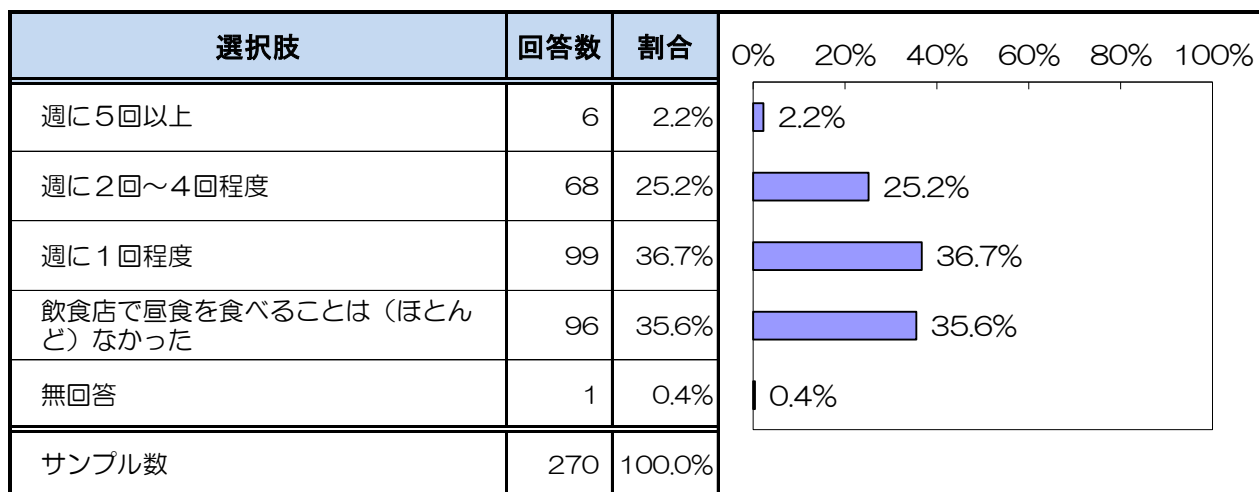
また、この食事形態の移り変わり合わせ、概ね半数の方が、家庭から出る生ごみなどの「もやせるごみ」や「缶・びん、ペットボトル」、「プラスチック容器類」の量が増えたと回答しています。(順に 42.2%、45.9%、54.4%)

今回の調査結果を参考とし、3Rの推進による資源の有効活用や食品ロスの削減などについて意識啓発を図るとともに、市民・事業者・市民活動団体・行政が協働・連携した資源循環への取組を進めてまいります。

3. 調査結果

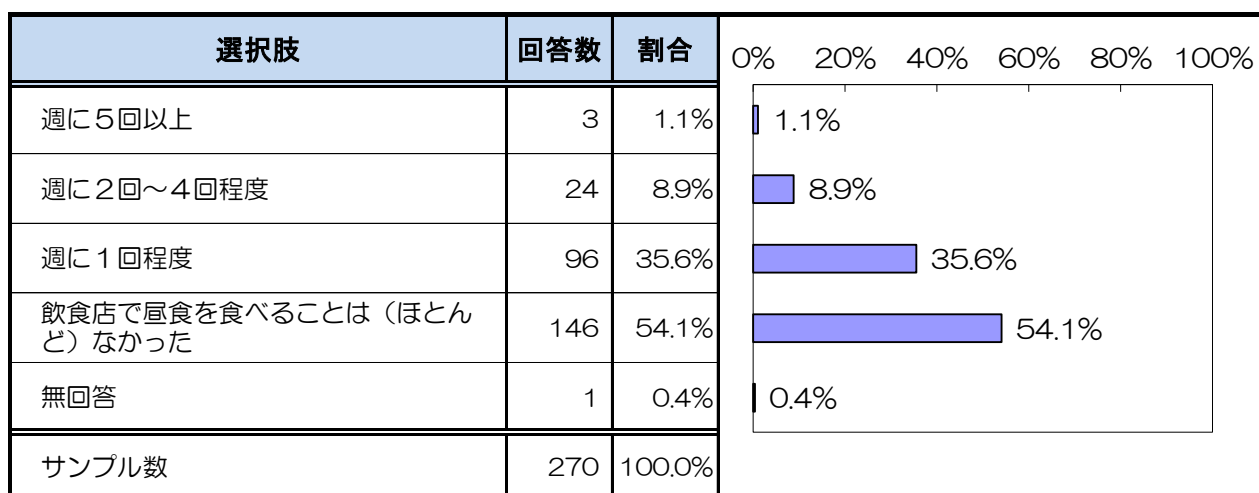
問1 コロナ禍前（令和2年2月以前）、週に何回程度、飲食店で昼食を食べていましたか。（単数回答）

「週に1回程度」が36.7%と最も高く、次いで、「飲食店で昼食を食べることは（ほとんど）なかった」の35.6%、「週に2回～4回程度」の25.2%の順となっています。



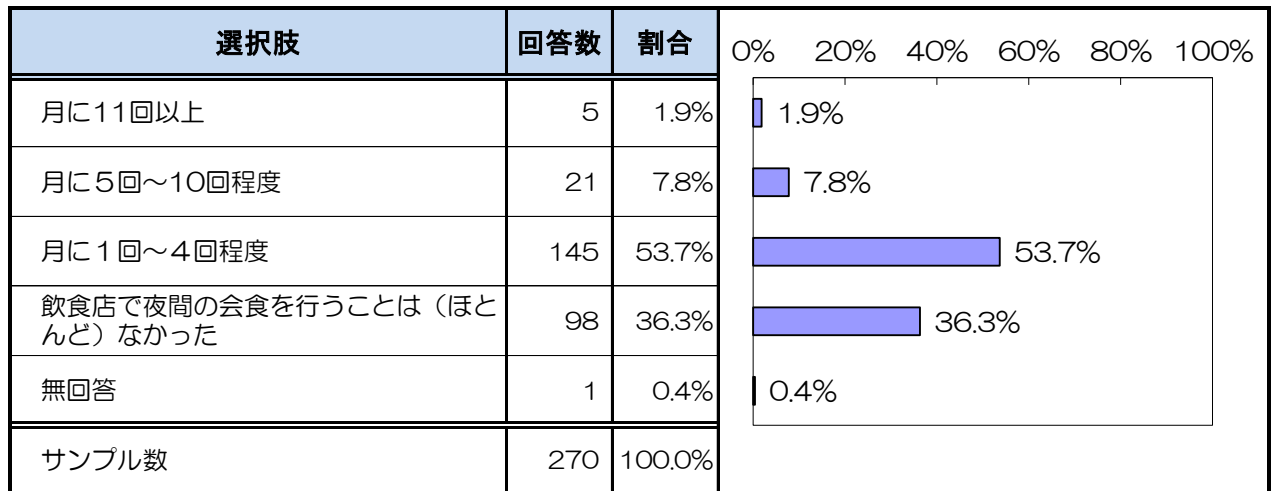
問2 令和4年上半期（1月から6月まで）、週に何回程度、飲食店で昼食を食べていましたか。（単数回答）

「飲食店で昼食を食べることは（ほとんど）なかった」が54.1%と最も高く、次いで、「週に1回程度」の35.6%、「週に2回～4回程度」の8.9%の順となっています。



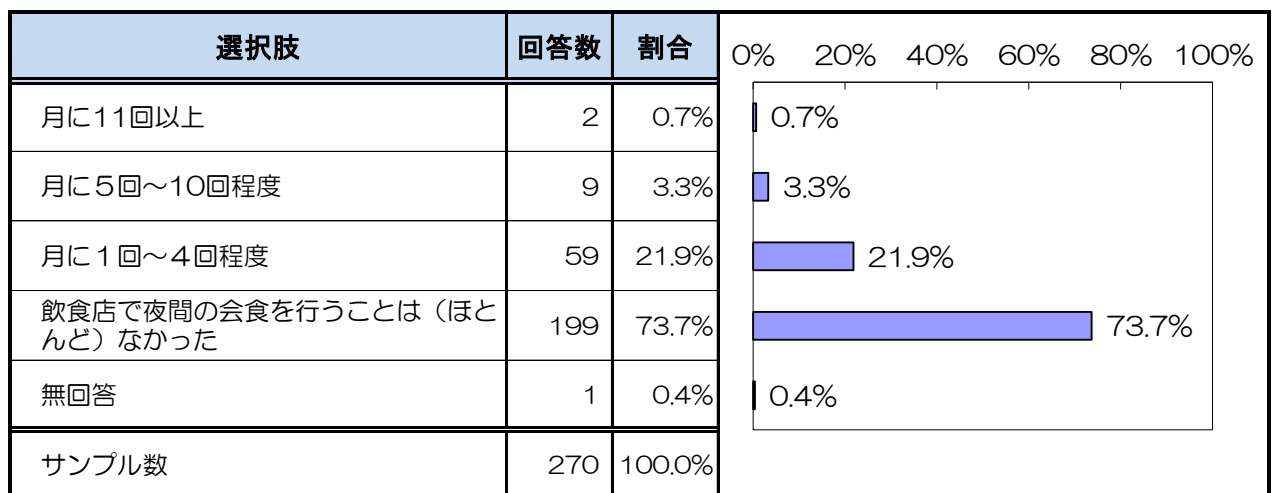
問3 コロナ禍前（令和2年2月以前）、月に何回程度、飲食店で夜間の会食（2人以上での飲食）を行っていましたか。（単数回答）

「月に1回～4回程度」が53.7%と最も高く、次いで、「飲食店で夜間の会食を行うことは（ほとんど）なかった」の36.3%、「月に5回～10回程度」の7.8%の順となっています。



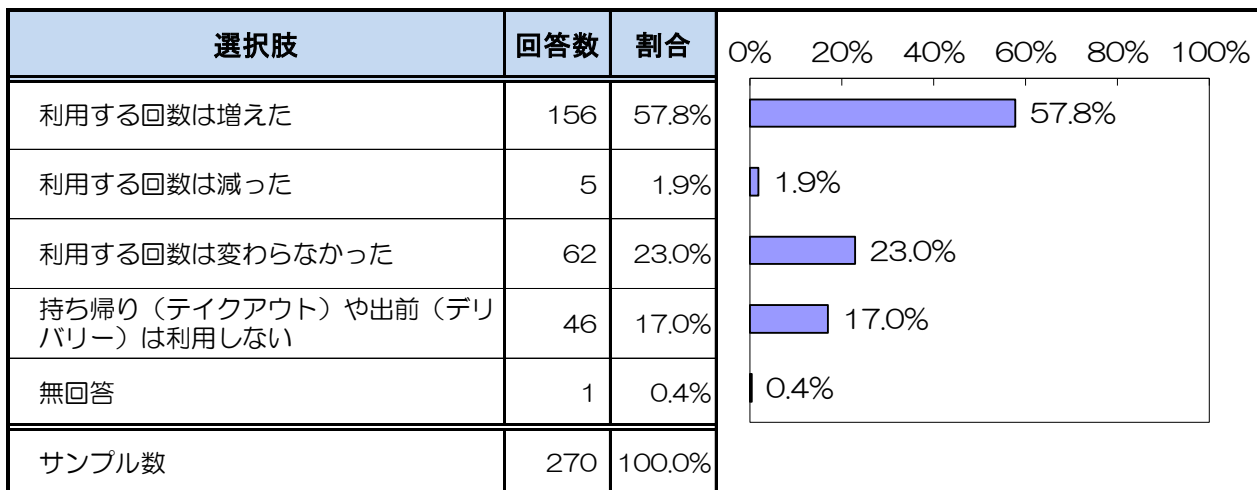
問4 令和4年上半期（1月から6月まで）、月に何回程度、飲食店で夜間の会食（2人以上での飲食）を行っていましたか。（単数回答）

「飲食店で夜間の会食を行うことは（ほとんど）なかった」が73.7%と最も高く、次いで、「月に1回～4回程度」の21.9%、「月に5回～10回程度」の3.3%の順となっています。



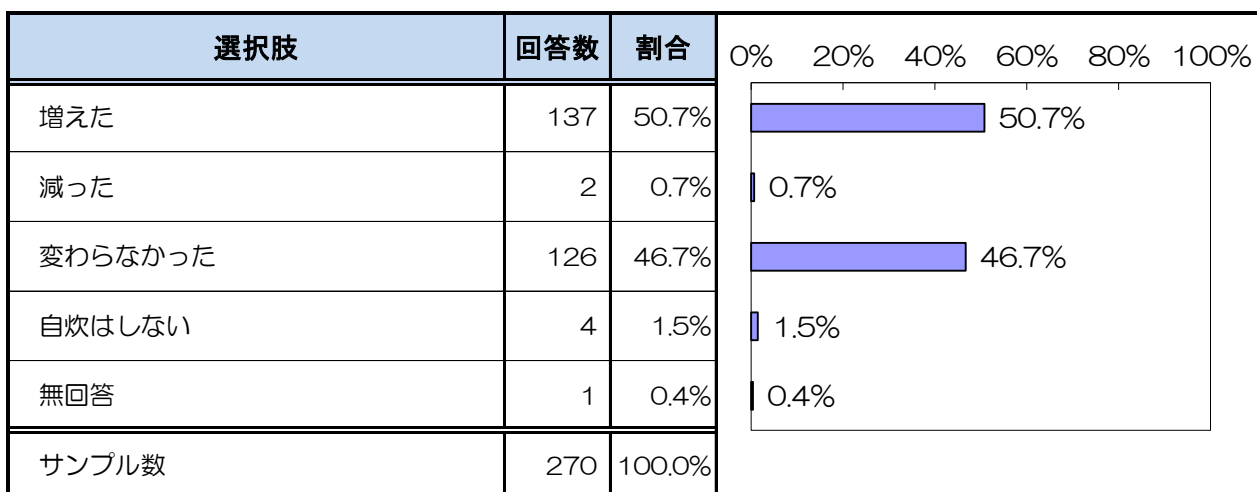
問5 コロナ禍の外出自粛により、持ち帰り（テイクアウト）や出前（デリバリー）の食事は増えましたか。（単数回答）

「利用する回数は増えた」が 57.8%と最も高く、次いで、「利用する回数は変わらなかった」の 23.0%、「持ち帰り（テイクアウト）や出前（デリバリー）は利用しない」の 17.0%の順となっています。



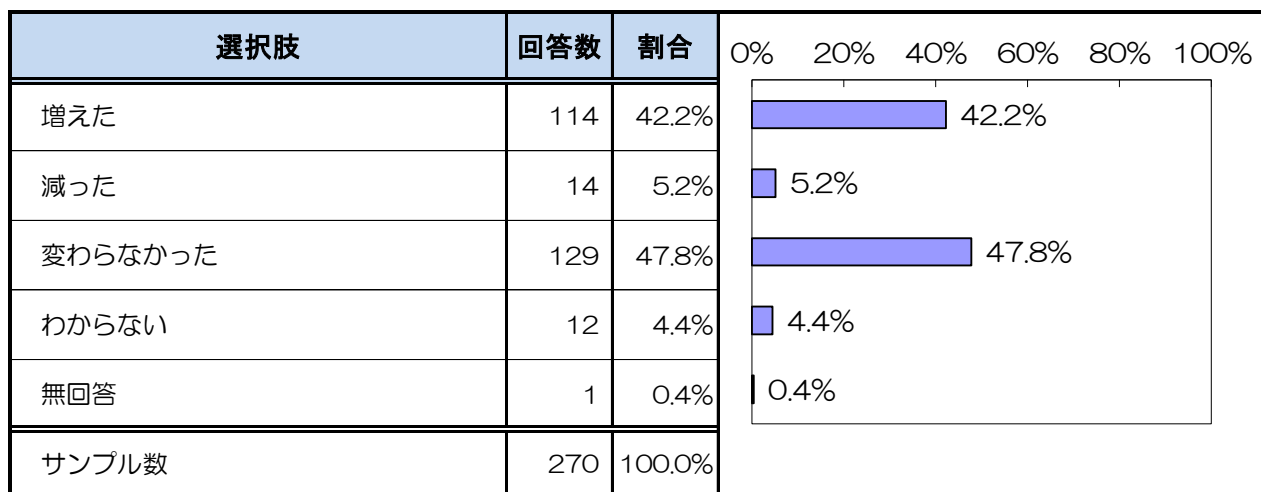
問6 コロナ禍の外出自粛により、自炊（家族が作る場合も含む）は増えましたか。（単数回答）

「増えた」が 50.7%と最も高く、次いで、「変わらなかった」の 46.7%、「自炊はしない」の 1.5%の順となっています。



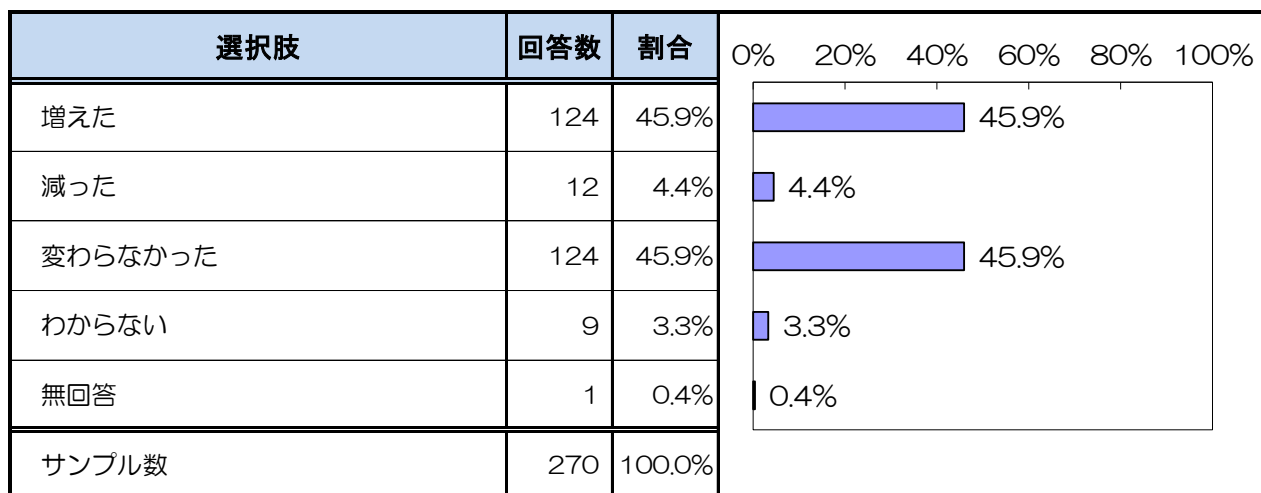
問7 家庭から出る生ごみなどの「もやせるごみ」の量は、コロナ禍前（令和2年2月以前）と比べてどうなりましたか。（単数回答）

「変わらなかった」が47.8%と最も高く、次いで、「増えた」の42.2%、「減った」の5.2%の順となっています。



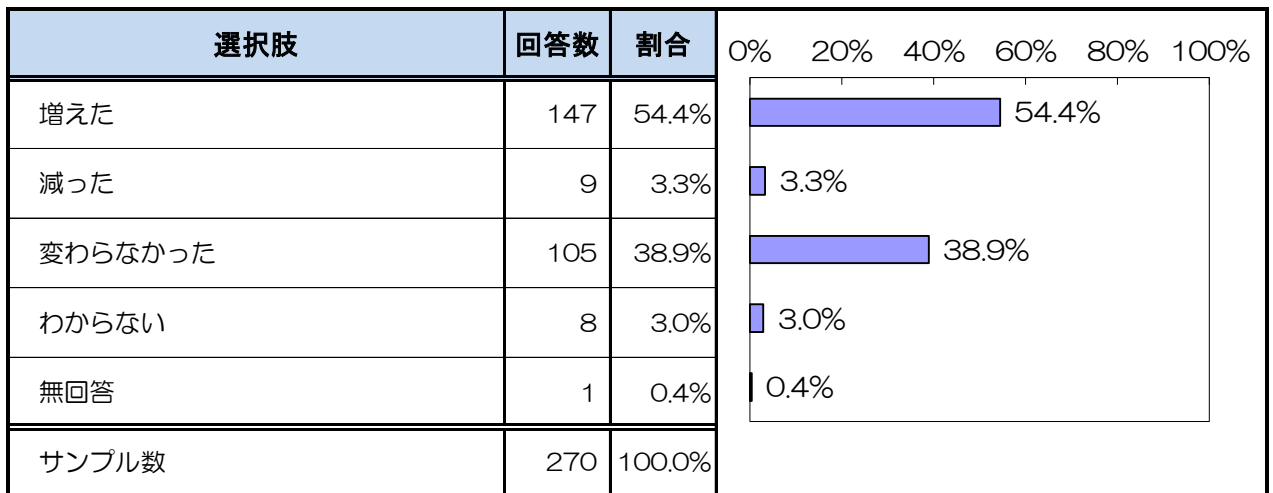
問8 家庭から出る「缶・びん、ペットボトル」の量は、コロナ禍前（令和2年2月以前）と比べてどうなりましたか。（単数回答）

「増えた」「変わらなかった」がともに45.9%と最も高く、次いで、「減った」の4.4%、「わからない」の3.3%の順となっています。



問9 家庭から出る食品トレイやお惣菜の持ち帰り容器などの「プラスチック容器類」の量は、コロナ禍前（令和2年2月以前）と比べてどうなりましたか。（単数回答）

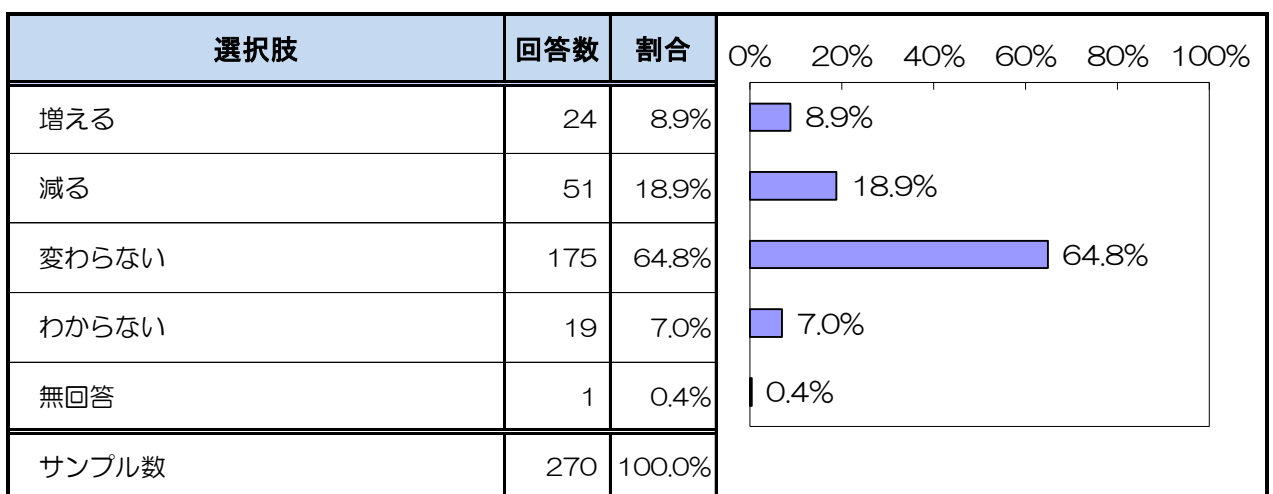
「増えた」が54.4%と最も高く、次いで、「変わらなかった」の38.9%、「減った」の3.3%の順となっています。



問10 コロナ禍が終息したら、自炊や外食、テイクアウトの利用など、現在の食事の形態はどうなると思いますか。（それぞれ単数回答）

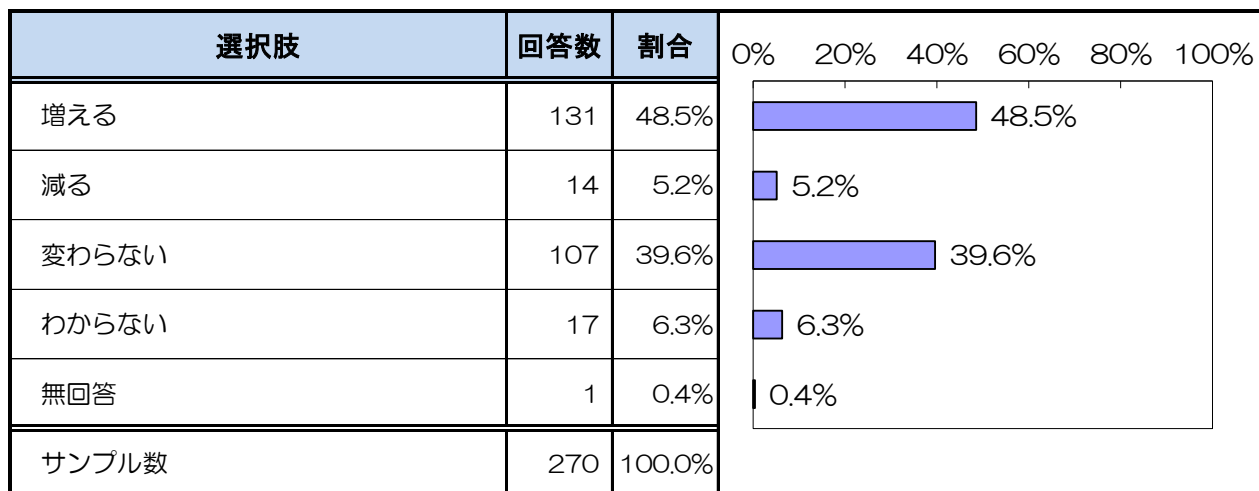
㊦ 自炊

「変わらない」が64.8%と最も高く、次いで、「減る」の18.9%、「増える」の8.9%の順となっています。



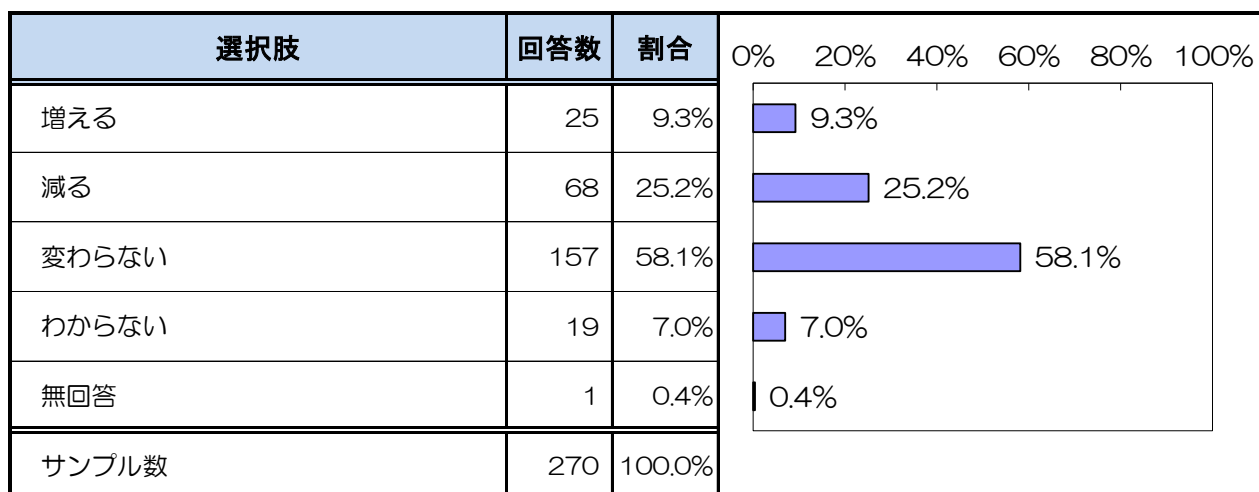
① 外食

「増える」が 48.5%と最も高く、次いで、「変わらない」の 39.6%、「わからない」の 6.3%の順となっています。



② テイクアウトの利用

「変わらない」が 58.1%と最も高く、次いで、「減る」の 25.2%、「増える」の 9.3%の順となっています。



Ⅲ 性の多様性について

1. 調査の目的

本市では、市民一人ひとりの人権や多様性が尊重され、誰もが安心して暮らしていける社会の実現に向けて人権教育・啓発基本計画を策定し、啓発活動に取り組んでおります。その取り組みの一環として、令和4年1月から「鹿児島市パートナーシップ宣誓制度」を導入いたしました。今回は、市民の皆様性に性の多様性（性的少数者（LGBTなど）やパートナーシップ宣誓制度など）についての考えをお聞かせいただき、今後の施策の参考とするために、アンケートを実施しますので、ご協力をお願いいたします。

2. 調査結果を受けて担当課（人権推進課）からのコメント

「LGBT」という言葉については、81.9%の方が「知っていた」と回答しており、浸透してきていることがわかりますが、「SOGI（ソジ・ソギ）」という言葉については、78.9%の方が「知らなかった」と回答していることから、今後、より一層、性の多様性に関する基礎知識の周知・啓発に努める必要があると考えます。

また、「鹿児島市パートナーシップ宣誓制度」については、44.4%の方が「知らなかった」と回答しており、本制度のさらなる周知が必要であると考えます。

現在の社会は、性的少数者の方々にとって、生きやすい社会だと「思わない・どちらかと言えば思わない」と回答した方が75.2%であり、そう思う理由として、66.0%の方が「周囲の人の理解が得られないと思うから」と回答していることから、性的少数者の方々生きやすい社会となるためには、性の多様性に関する社会的理解を広げていくことが必要であると考えます。

性的少数者の方々生活しやすい社会となるために必要な取り組みとして、「行政による制度や環境の整備」（60.7%）や「教育現場での啓発活動」（60.0%）が多く選択されていることから、性的少数者に対する支援制度等の整備や子どもに対する教育・啓発などが重要視されていることがわかりました。

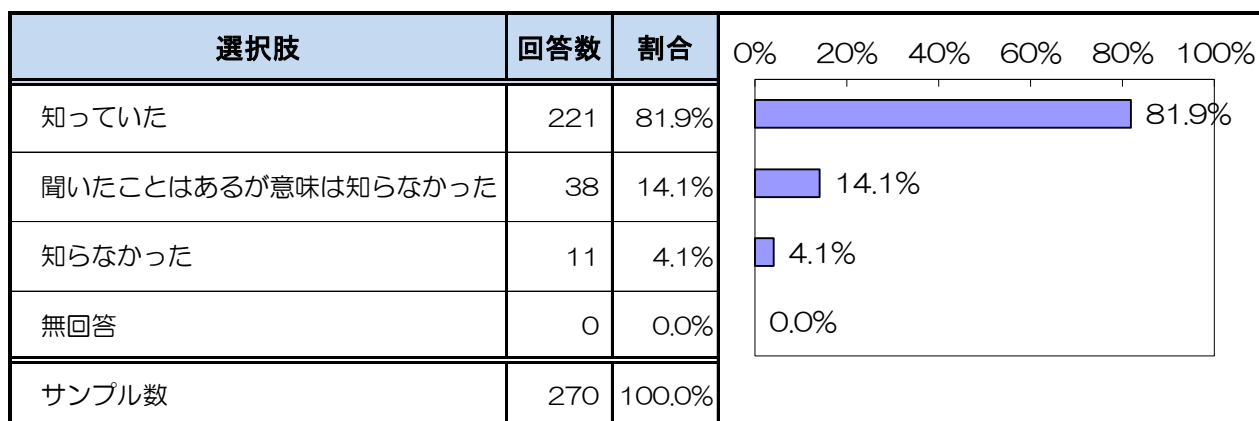
なお、77.0%の方が、過去1年間に地域・職場の研修や講演会、パネル展など、人権について学ぶ機会が「なかった」と回答していることから、今後、さらなる啓発活動が必要であると考えます。

今回の調査結果を踏まえ、性の多様性についての社会的理解を広げるための取り組みを推進してまいります。

3. 調査結果

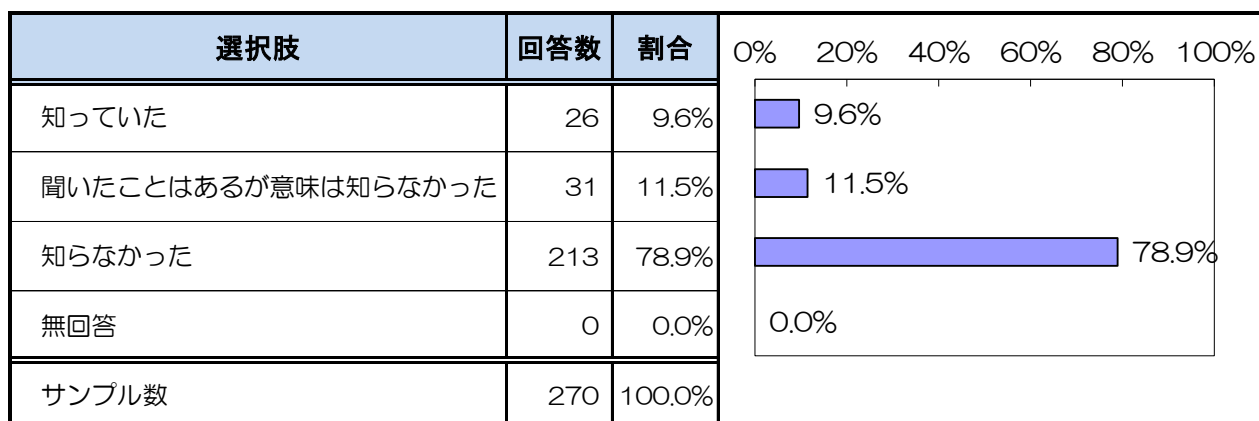
問 11 性的少数者の総称の一つである「LGBT」という言葉を知っていましたか。(単数回答)

「知っていた」が81.9%、「聞いたことはあるが意味は知らなかった」が14.1%、「知らなかった」が4.1%となっています。



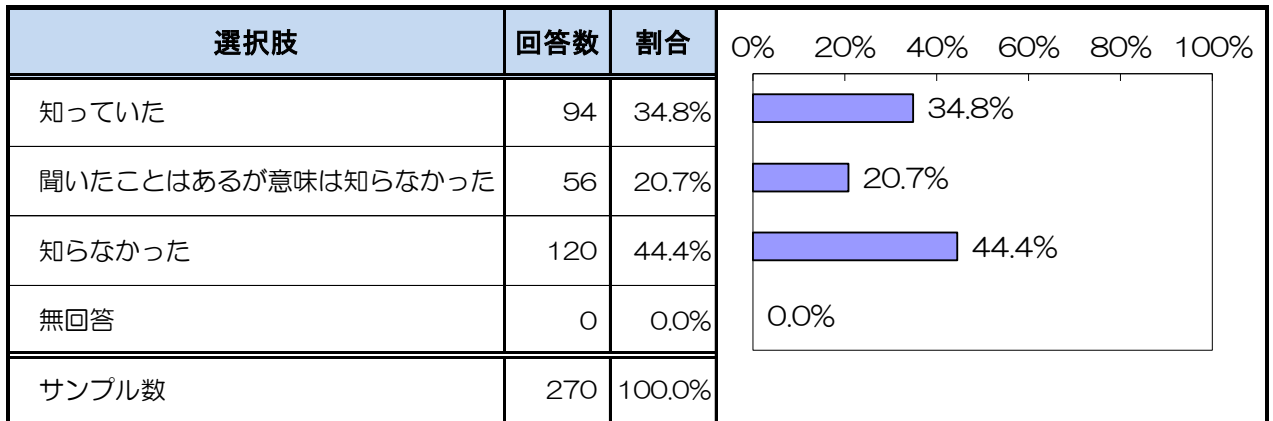
問 12 「SOGI (ソジ・ソギ)」という言葉を知っていましたか。(単数回答)

「知っていた」が9.6%、「聞いたことはあるが意味は知らなかった」が11.5%、「知らなかった」が78.9%となっています。



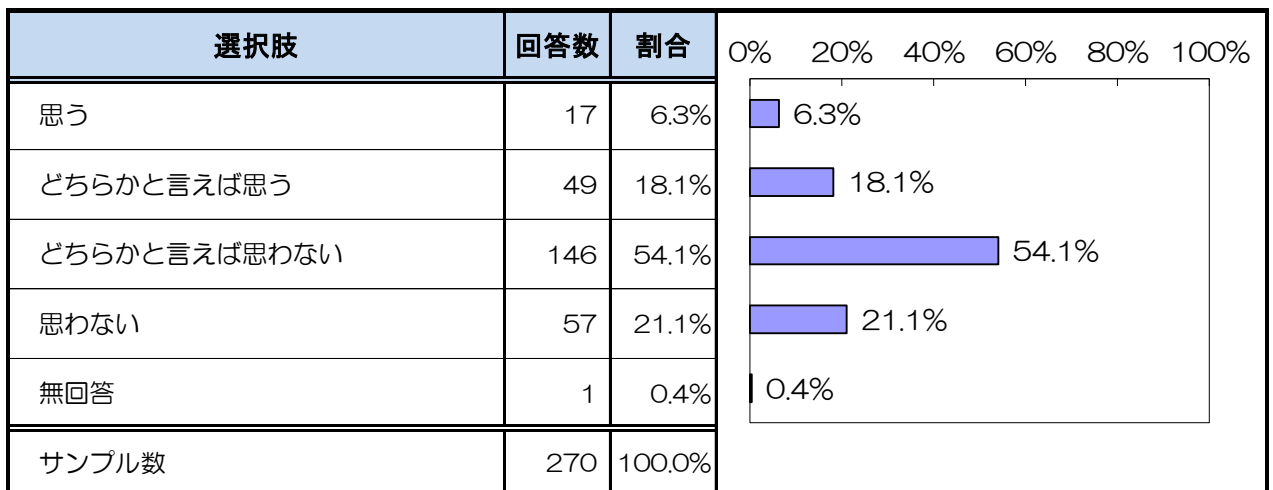
問 13 本市で性的少数者（LGBTなど）への支援策として実施している「鹿児島市パートナーシップ宣誓制度」について知っていましたか。
（単数回答）

「知っていた」が 34.8%、「聞いたことはあるが意味は知らなかった」が 20.7%、「知らなかった」が 44.4%となっています。



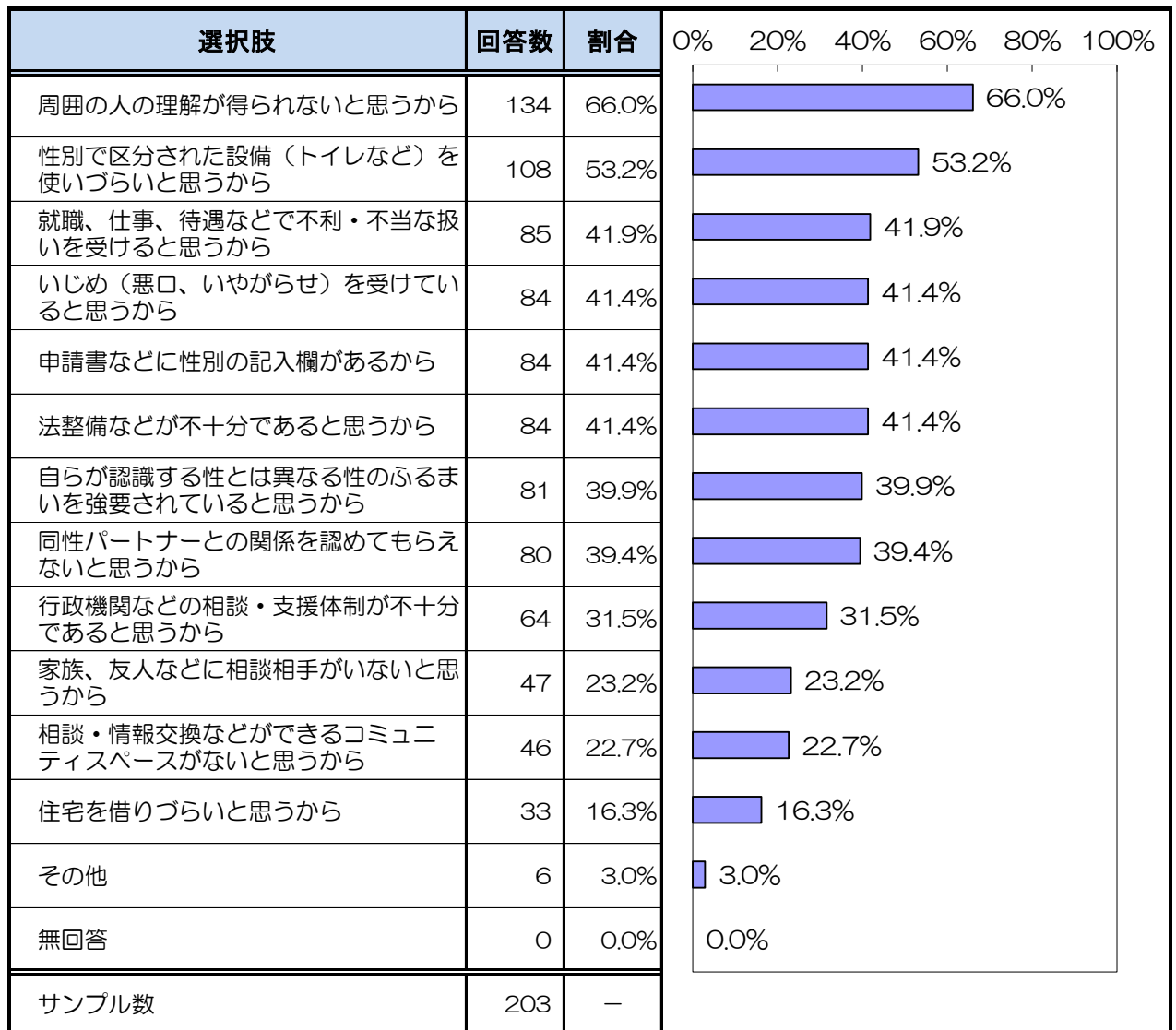
問 14 現在の社会は、性的少数者の方々にとって、偏見や差別などの人権侵害のない生きやすい社会だと思いますか。（単数回答）

「どちらかと言えば思わない」が 54.1%と最も高く、次いで、「思わない」の 21.1%、「どちらかと言えば思う」の 18.1%の順となっています。



問15 問14で「3. どちらかと言えば思わない」「4. 思わない」とお答えした方にお伺いします。そう思う理由は何ですか。(複数回答)

「周囲の人の理解が得られないと思うから」が66.0%と最も高く、次いで、「性別で区分された設備（トイレなど）を使いづらいと思うから」の53.2%、「就職、仕事、待遇などで不利・不当な扱いを受けると思うから」の41.9%の順となっています。

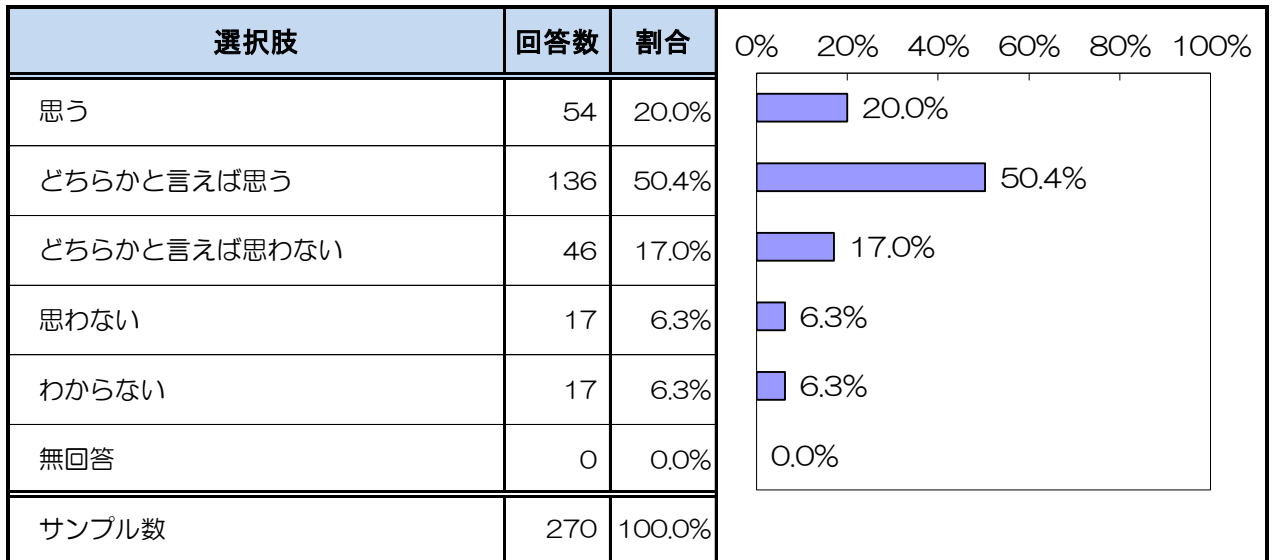


◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

- ・生命保険など入りにくくなるから。
- ・偏見がある人の好奇の目に晒されていそうだから。
- ・日本人は多様性について受け入れにくい文化が根強いのではないかと感じるから。

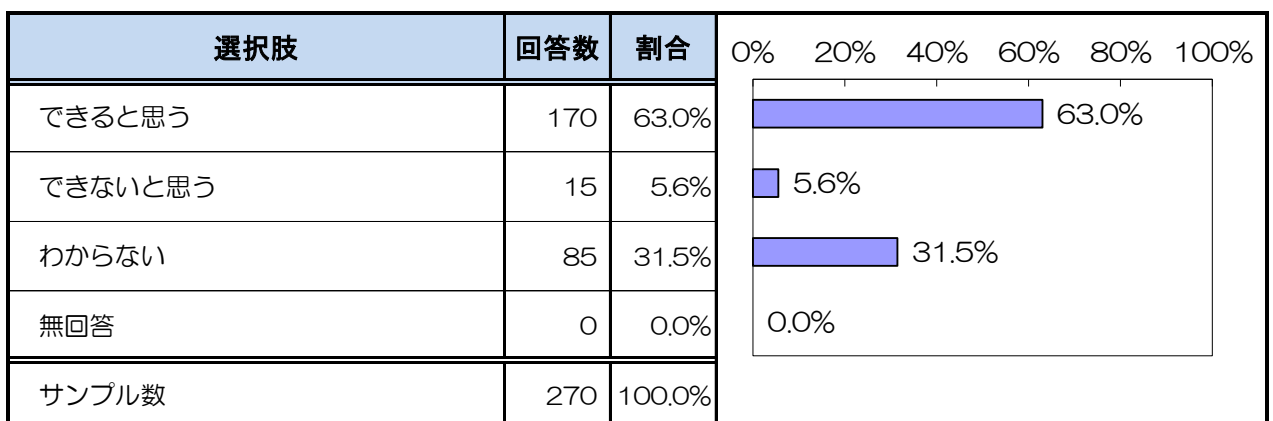
問 16 L G B Tに関する社会的な意識が高まっていると思いますか。
(単数回答)

「どちらかと言えば思う」が 50.4%と最も高く、次いで、「思う」の 20.0%、「どちらかと言えば思わない」の 17.0%の順となっています。



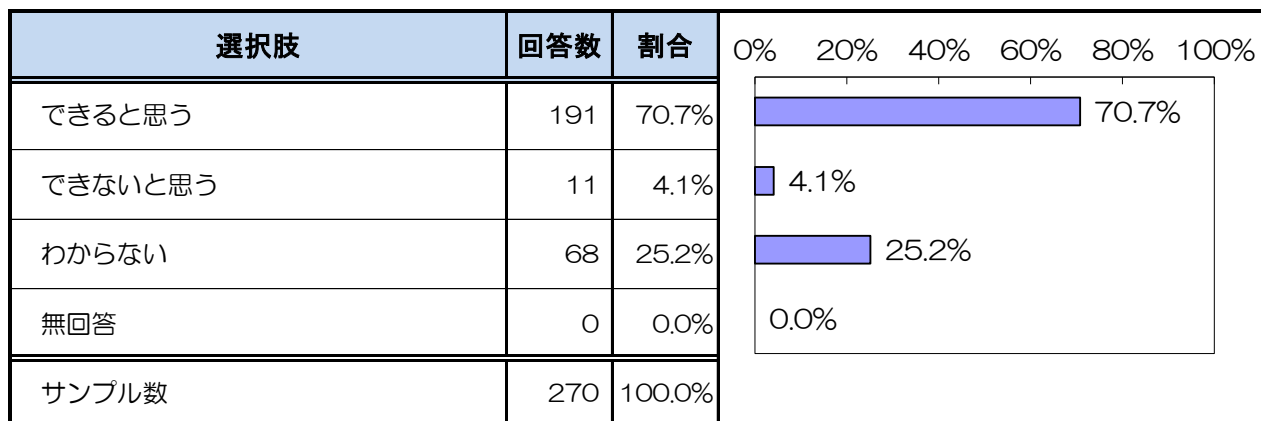
問 17 家族や友人など身近な方が L G B T などであった場合、あなたはこれまでと変わりなく接することができますか。(単数回答)

「できると思う」が 63.0%、「できないと思う」が 5.6%、「わからない」が 31.5%となっています。



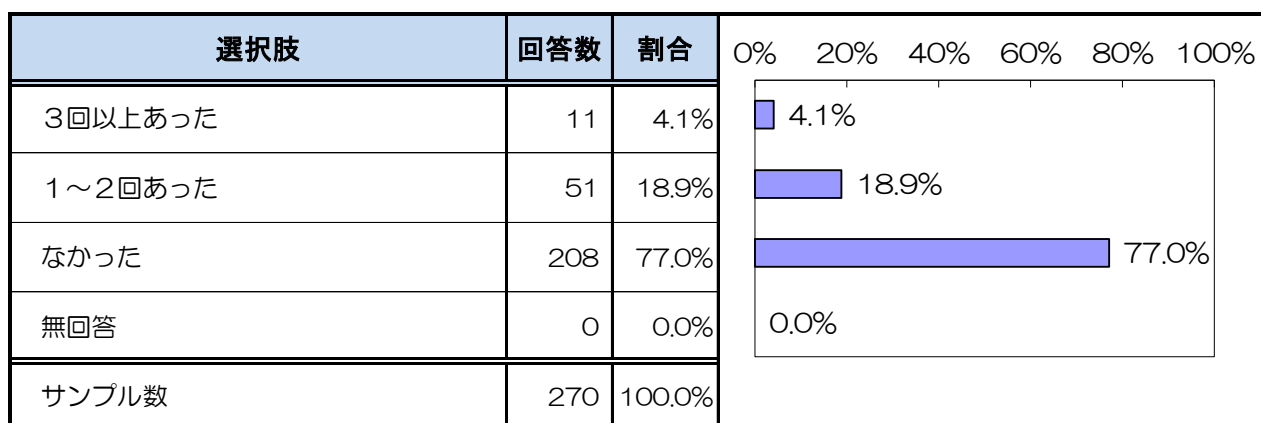
問 18 学校や職場の人がLGBTなどであった場合、あなたはこれまでと変わりなく接することができますか。(単数回答)

「できると思う」が 70.7%、「できないと思う」が 4.1%、「わからない」が 25.2%となっています。



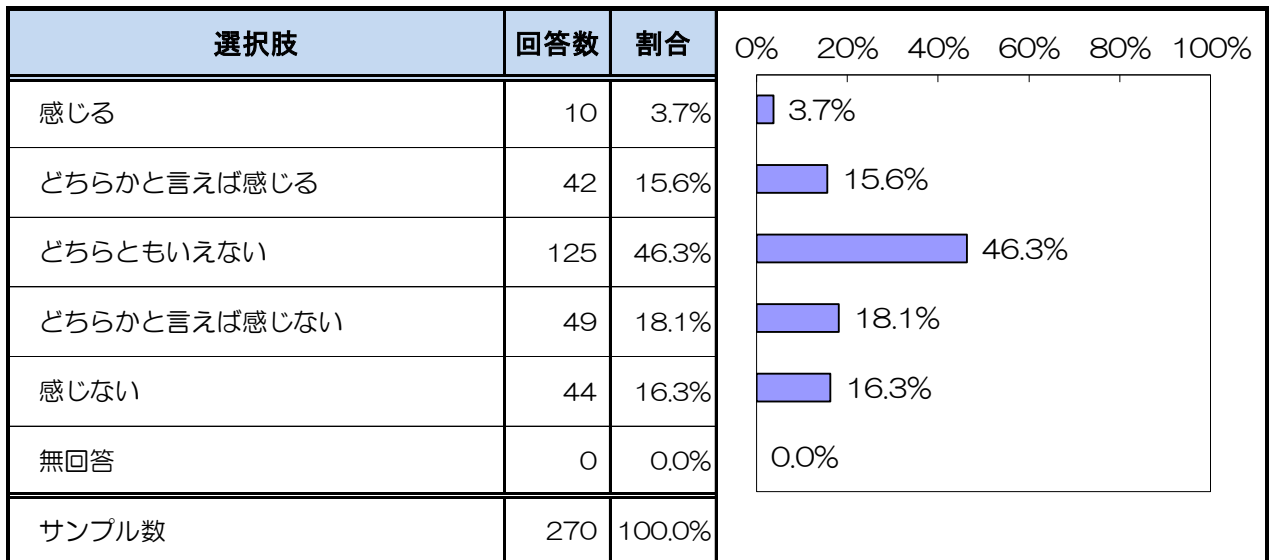
問 19 あなたは、過去1年間に、地域・職場の研修や講演会、パネル展など、人権について学ぶ機会がありましたか。(単数回答)

「3回以上あった」が 4.1%、「1～2回あった」が 18.9%、「なかった」が 77.0%となっています。



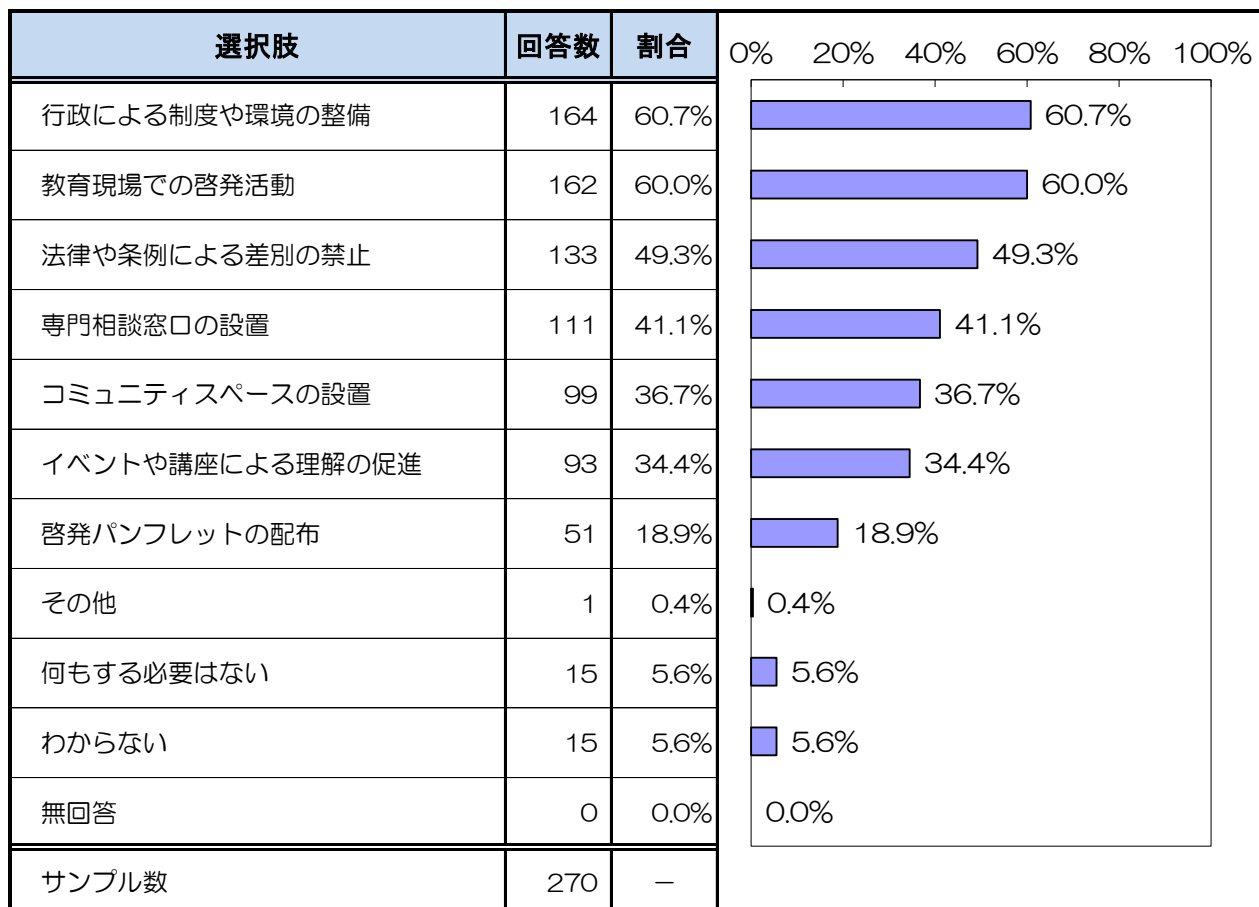
問 20 鹿児島市は、一人ひとりの人権や多様性が尊重され、性別や年齢、国籍などにかかわらず、誰もが個性と能力を発揮できるまちづくりが進んでいると感じますか。(単数回答)

「どちらともいえない」が 46.3%と最も高く、次いで、「どちらかと言えば感じない」の 18.1%、「感じない」の 16.3%の順となっています。



問 21 LGBTなどの性的少数者の方々が生活しやすい社会になるためには、
どのような取り組みが必要だと思いますか。(複数回答)

「行政による制度や環境の整備」が 60.7%と最も高く、次いで、「教育現場での啓発活動」の 60.0%、「法律や条例による差別の禁止」の 49.3%の順となっています。



◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

- ・若い世代の方々はこのような問題に対しての意識は元から高いし、私のような 40 代の人間よりずっと多様性に対する理解は深い。しかし 50 代後半以上くらいの年代の方々は、この多様性に対する意識はかなり低いと感じる。人口比率が高い年代に対して理解を求める活動に絞る事は必要な課題であると感じる。

問 22 性的少数者（LGBTなど）やパートナーシップ宣誓制度について、
ご意見があればお聞かせください。

◆回答一覧（一部抜粋・原文まま）

・性的少数者に対する意見について

回答内容	性別	年代	地域
LGBTの方を特別扱いすることの方がどうかなあと思うこともある。周りの人が差別を無くそうと声を上げることでLGBTの方々の自己主張が強くなりすぎていく傾向にあると感じています。周りは何もしてくれないとか優しくないとか。「特別扱いすることなく」がいいのではないのでしょうか。	女	40歳代	谷山

・広報・周知・啓発について

回答内容	性別	年代	地域
若い人は最近の事柄について柔軟に受け入れると思うので、行政による知る機会の増加により、LGBTなどへの理解も早いはず。問題は高齢者の方々への啓発運動。知ってもらうにあたって相当な工夫がないと理解されないだろう。	男	29歳以下	中央

・学校や家庭での教育について

回答内容	性別	年代	地域
私はLGBTQ当事者か分かりませんが、鹿児島市でパートナーシップ宣誓制度が始まったことは大変嬉しく思いました。それでもまだまだ偏見や差別は消えていません。なので理解促進を促す活動はもっと活発的に行って欲しいと思っています。LGBTQと言っても本当に様々な性があるので、それらを学ぶ機会を学校教育の中でも組み込んで欲しいと思います。	女	29歳以下	中央

Ⅳ コロナによるコミュニティの活動及び意識の変化について

1. 調査の目的

町内会は、住民みんなが安心・安全で快適に暮らすことのできる環境づくりのため、「防犯灯やごみステーションの維持管理」、「町内清掃」などの生活環境に関するもの、「敬老会」や「夏祭り・六月灯」などの住民の親睦交流に関するもの、「高齢者慰問・声かけ」などの福祉活動に関するものなど様々な活動を行っています。

今回、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、地域のつながりや町内会の活動が大きな影響を受けたと思われることから、持続可能な地域コミュニティを構築するため、同感染症の影響下における人々の地域とのつながりや町内会に対する認識・活動への意識の変化に関する意識調査を行い、今後の施策や町内会への情報提供に役立てたいと考えておりますので、アンケートへのご協力をお願いします。

2. 調査結果を受けて担当課（地域づくり推進課）からのコメント

新型コロナウイルス感染症の影響下における人々の地域とのつながりや町内会に対する認識・活動への意識の変化について、市民の皆様を考えなどを伺うためにアンケートを実施したところ、多くのご回答やご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。

町内会に加入されている方の新型コロナウイルス感染症拡大を契機とした町内会活動への関わり方に関しては、「変わらない」が 58.9%と最も高く、次いで、「どちらかと言えば消極的になった」の 26.2%、「消極的になった」の 8.3%となっていることがわかりました。また、同感染症拡大の影響により町内会におけるイベントや各種活動等が中止となったことに関しては、「仕方ない」や「コロナ禍により活動の見直しがなされたことはよかった」とのご意見がある一方で、「寂しい」、「地域のつながりが希薄になったように感じた」や「いろいろ工夫して開催できれば」などのご意見もいただきました。

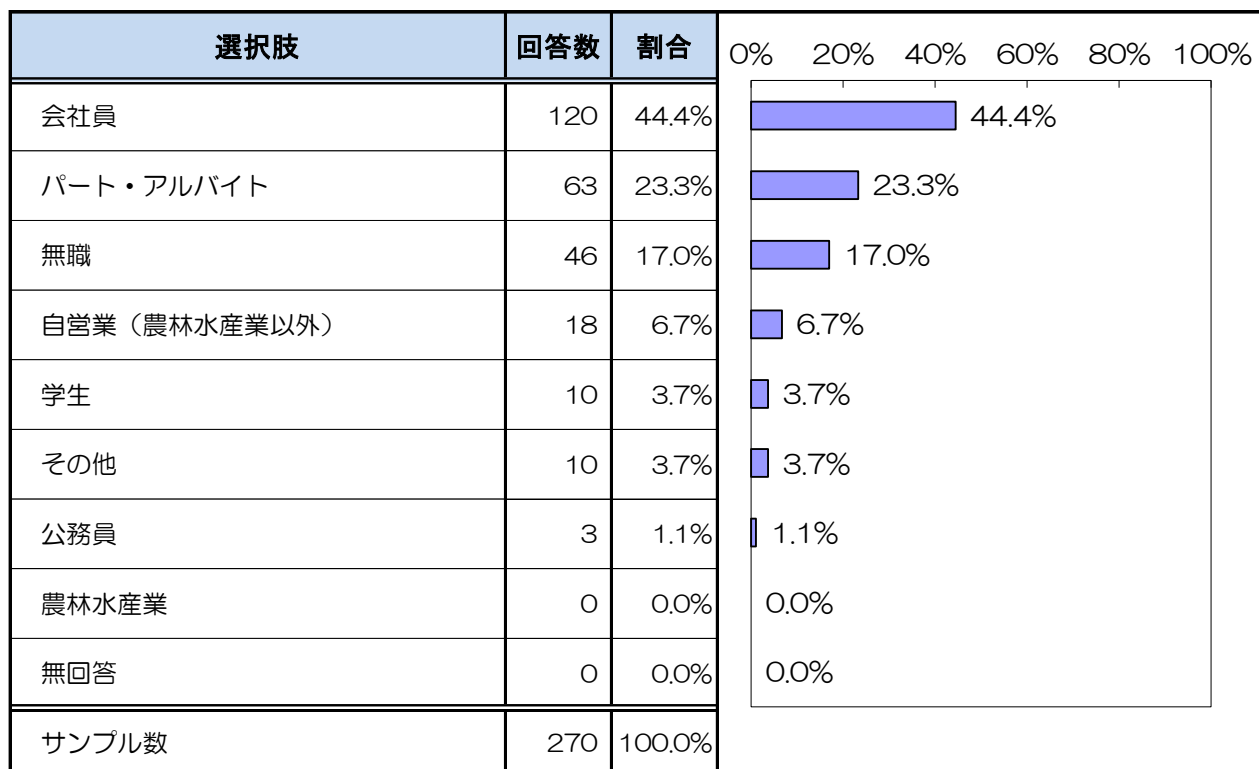
また、町内会活動や役員業務を負担に感じているとのご意見も多くあったことから、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機として、時代や地域住民のニーズに合った活動や運営への見直しの必要性を再認識いたしました。

今回の調査結果につきましては、町内会等に周知するとともに、ご意見等を踏まえ、コロナ禍における持続可能な地域コミュニティのあり方を引き続き検討してまいります。

3. 調査結果

問 23 職業について教えてください。(単数回答)

「会社員」が 44.4%と最も高く、次いで、「パート・アルバイト」の 23.3%、「無職」の 17.0%の順となっています。

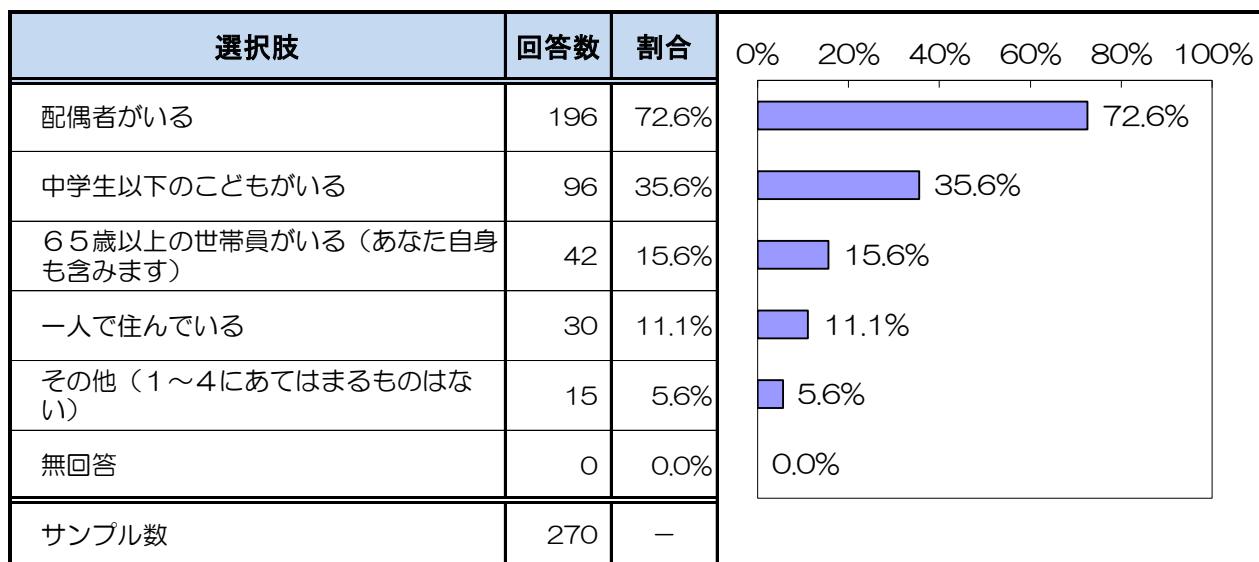


◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

- ・看護師
- ・個人事業とパートを掛け持ち
- ・非常勤職員

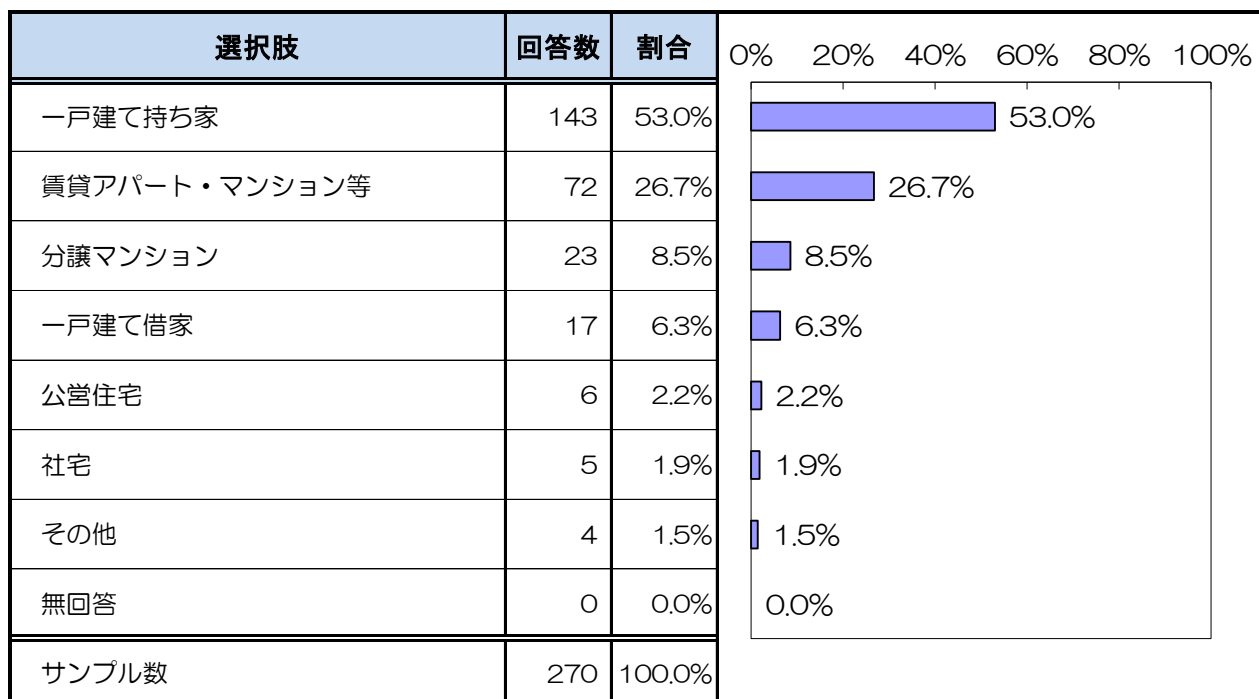
問 24 世帯構成について教えてください。(複数回答)

「配偶者がいる」が 72.6%と最も高く、次いで、「中学生以下のこどもがいる」の 35.6%、「65歳以上の世帯員がいる（あなた自身も含まれます）」の 15.6%の順となっています。



問 25 お住まいの住居について教えてください。(単数回答)

「一戸建て持ち家」が 53.0%と最も高く、次いで、「賃貸アパート・マンション等」の 26.7%、「分譲マンション」の 8.5%の順となっています。

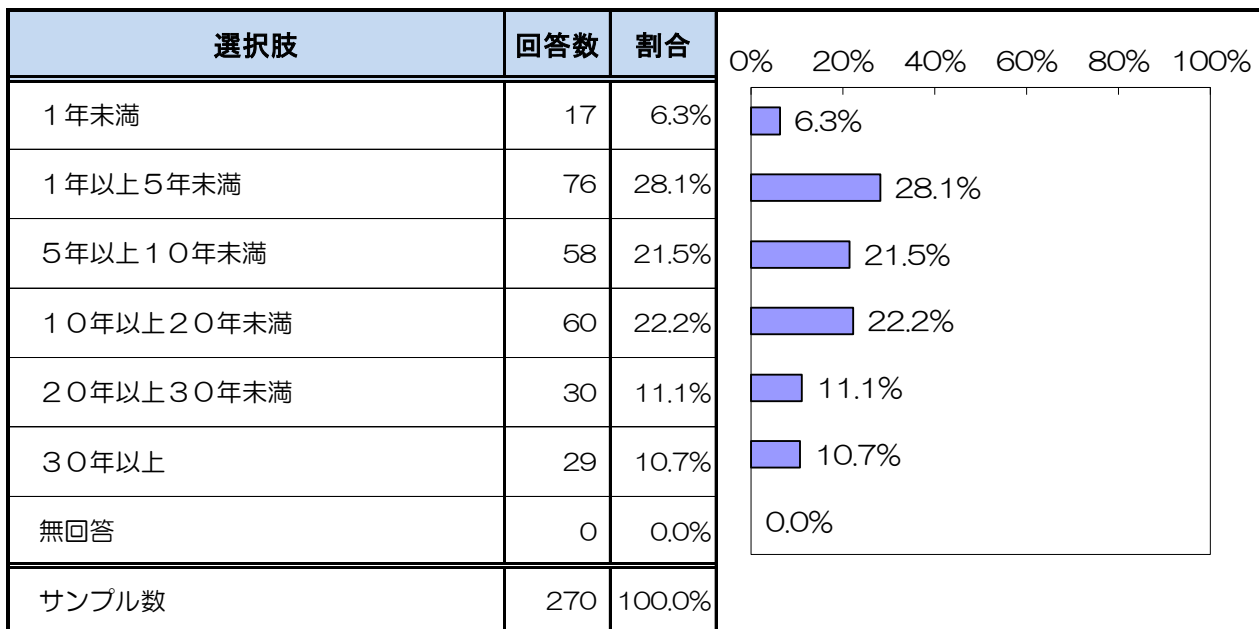


◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

- ・マンション持ち主

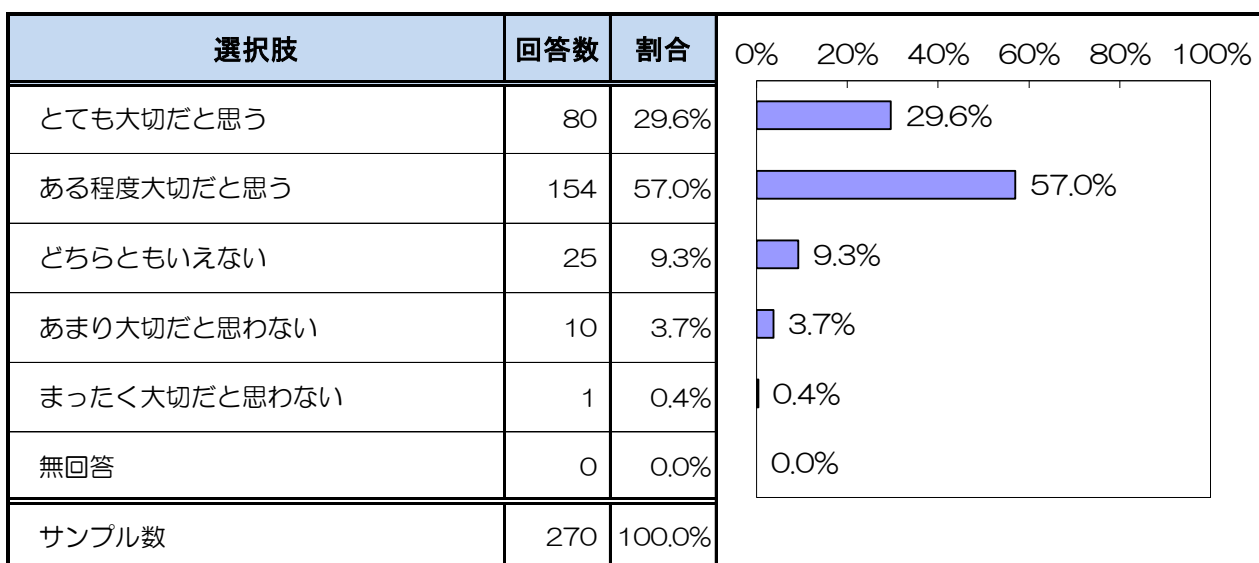
問 26 今お住まいの住居での居住年数について教えてください。(単数回答)

「1年以上5年未満」が28.1%と最も高く、次いで、「10年以上20年未満」の22.2%、「5年以上10年未満」の21.5%の順となっています。



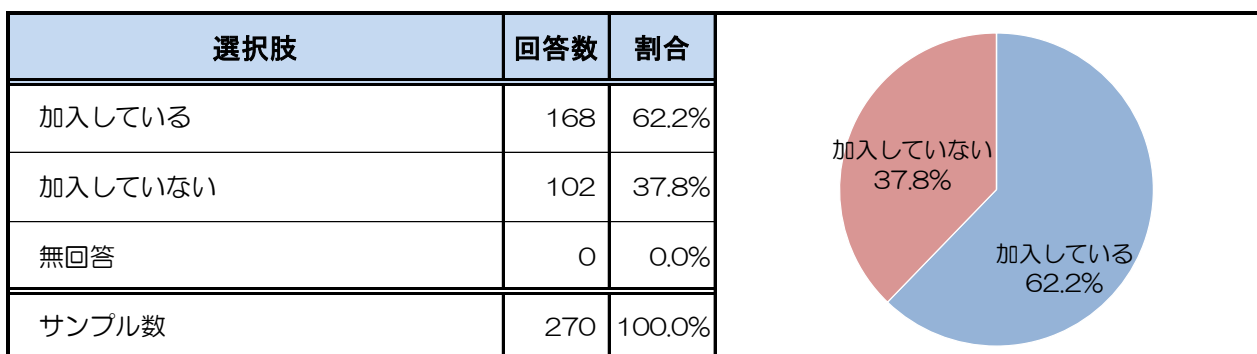
問 27 あなたは地域とのつながりは大切だと思いますか。(単数回答)

「ある程度大切だと思う」が57.0%と最も高く、次いで、「とても大切だと思う」の29.6%、「どちらともいえない」の9.3%の順となっています。



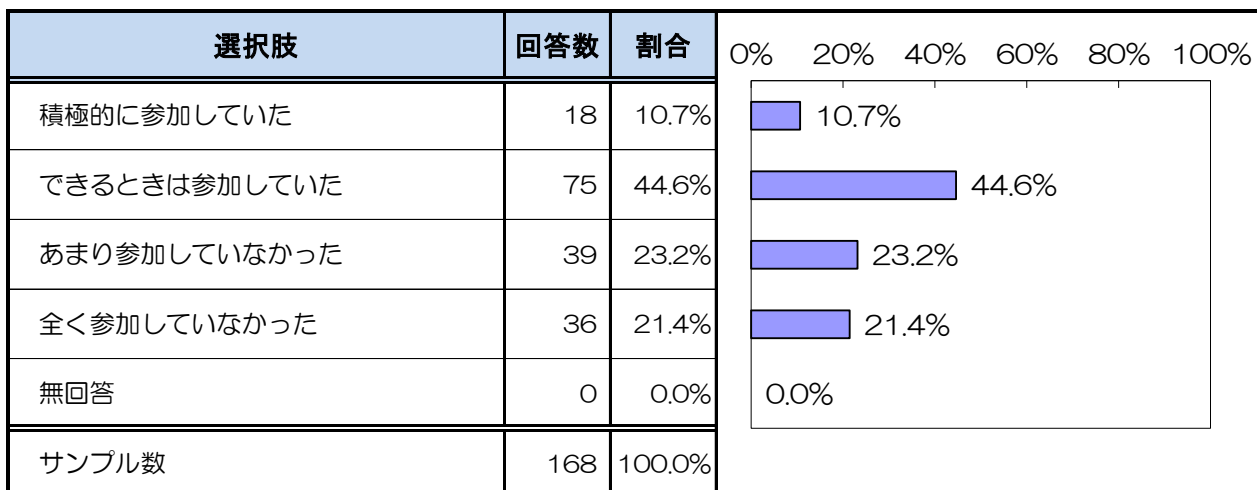
問 28 町内会に加入していますか。(単数回答)

「加入している」が62.2%、「加入していない」が37.8%となっています。



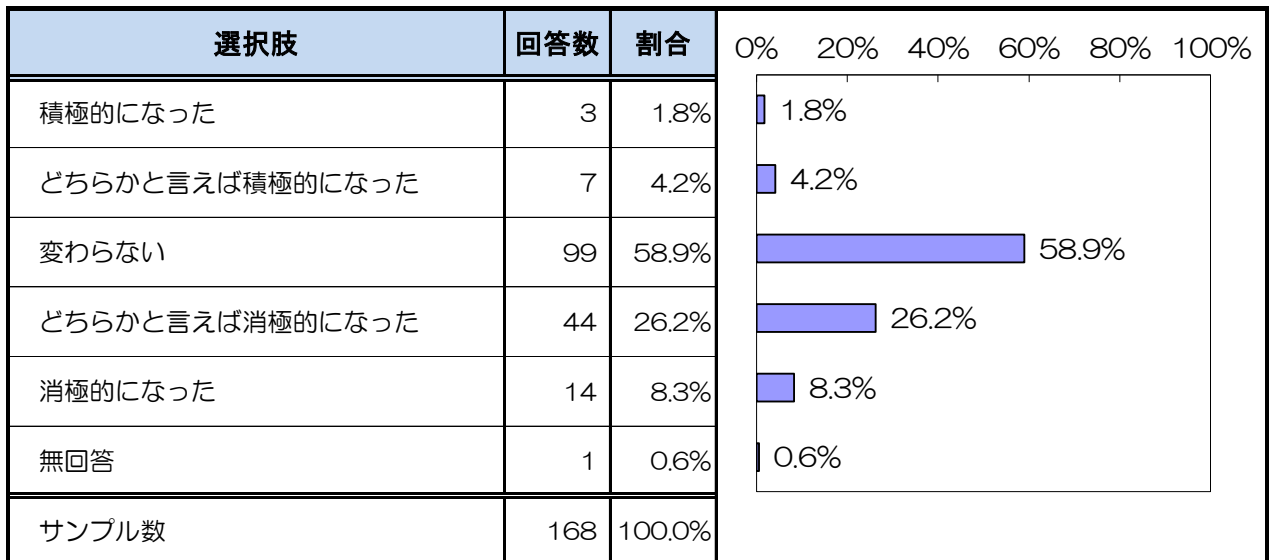
問 29 問28で「1. 加入している」とお答えした方にお伺いします。新型コロナウイルス感染症拡大前、町内会活動に参加をしていましたか。(単数回答)

「できるときは参加していた」が44.6%と最も高く、次いで、「あまり参加していなかった」の23.2%、「全く参加していなかった」の21.4%の順となっています。



問 30 問28で「1. 加入している」とお答えした方にお伺いします。新型コロナウイルス感染症拡大を契機として、町内会活動への関わり方に変化がありましたか。(単数回答)

「変わらない」が58.9%と最も高く、次いで、「どちらかと言えば消極的になった」の26.2%、「消極的になった」の8.3%の順となっています。



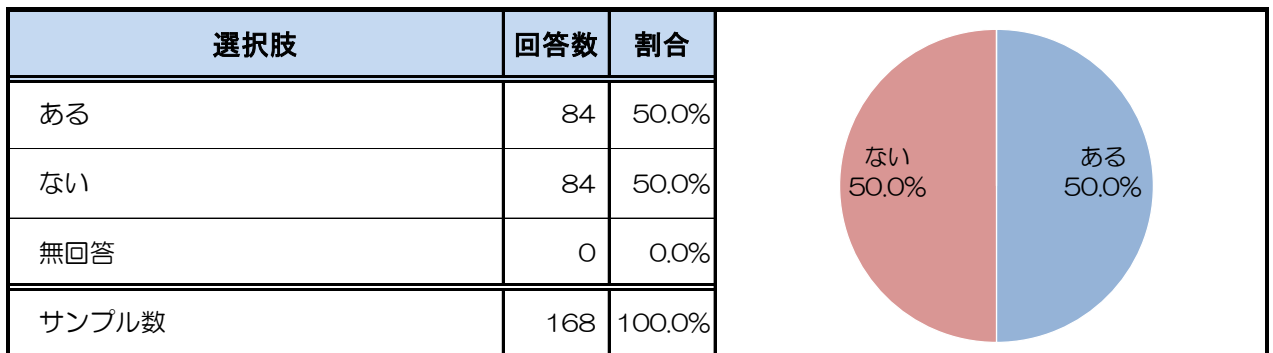
問 31 問28で「1. 加入している」とお答えした方にお伺いします。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、町内会におけるイベントや各種活動等が中止となったことについて、どのように感じましたか。
(自由記述)

◆回答一覧（一部抜粋・原文まま）

回答内容	性別	年代	地域
コロナ禍により自治会の活動の見直しがなされた事はとてもよかったと思います。ただ年配の方達は活動することで楽しめる行事もありますので感染予防対策をしながら行って行こうと思っています。	女	70歳以上	松元
寂しく感じたが、仕方ないと思う。	女	30歳代	郡山
対策を万全にすれば良いが、周知徹底できる可能性がないため、多くの行事を中止にしたが、地域のつながりが希薄になったように感じた。	男	50歳代	中央

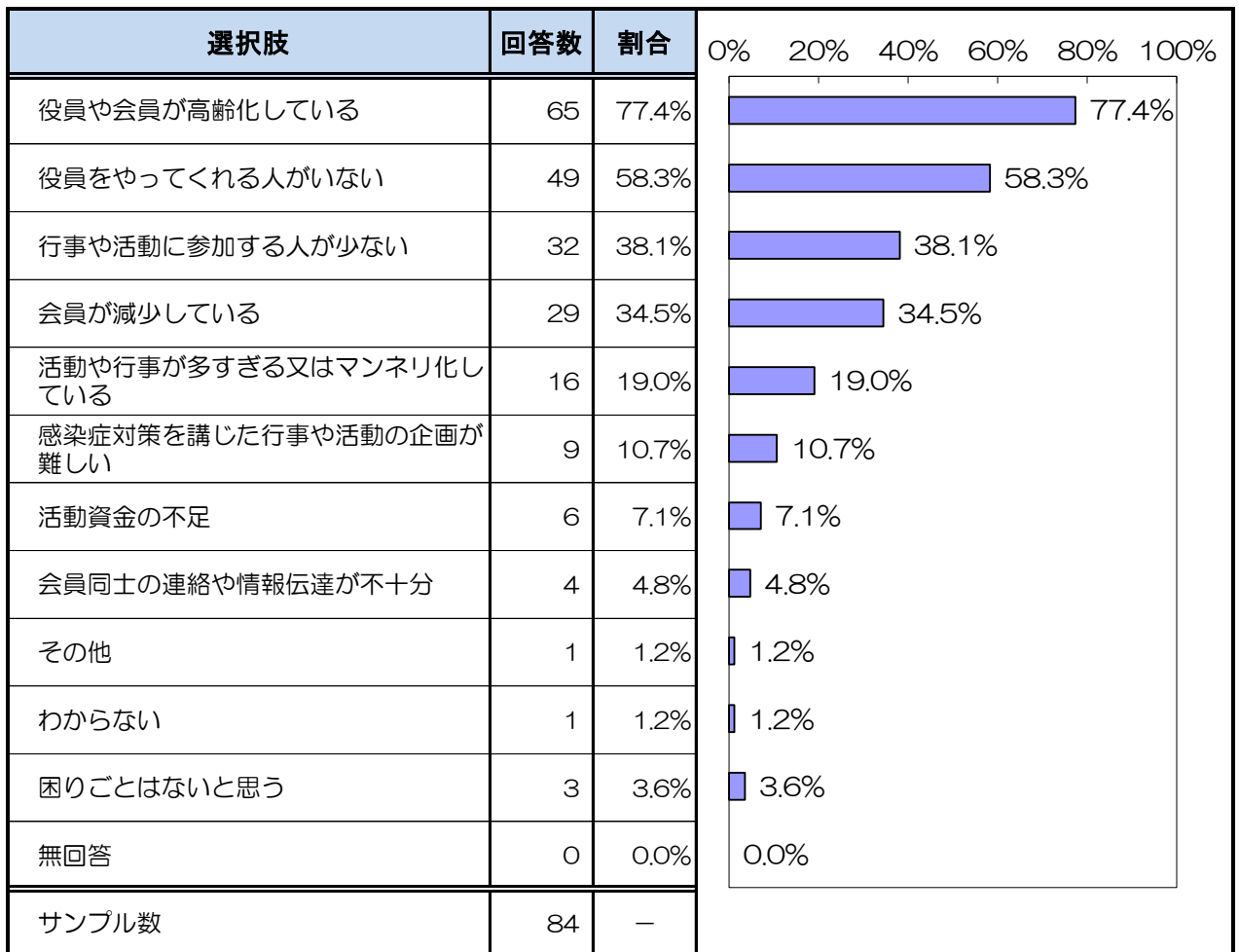
問 32 あなたは今まで（現在在任中も含めて）町内会の役員を経験したことがありますか。（ひとつだけ）

「ある」「ない」がともに50.0%となっています。



問 33 問32で「1. ある」とお答えした方にお伺いします。役員をした経験から、あなたが加入している町内会の困りごとは何だと思えますか。
(3つまで)

「役員や会員が高齢化している」が 77.4%と最も高く、次いで、「役員をやってくれる人がいない」の 58.3%、「行事や活動に参加する人が少ない」の 38.1%の順となっています。

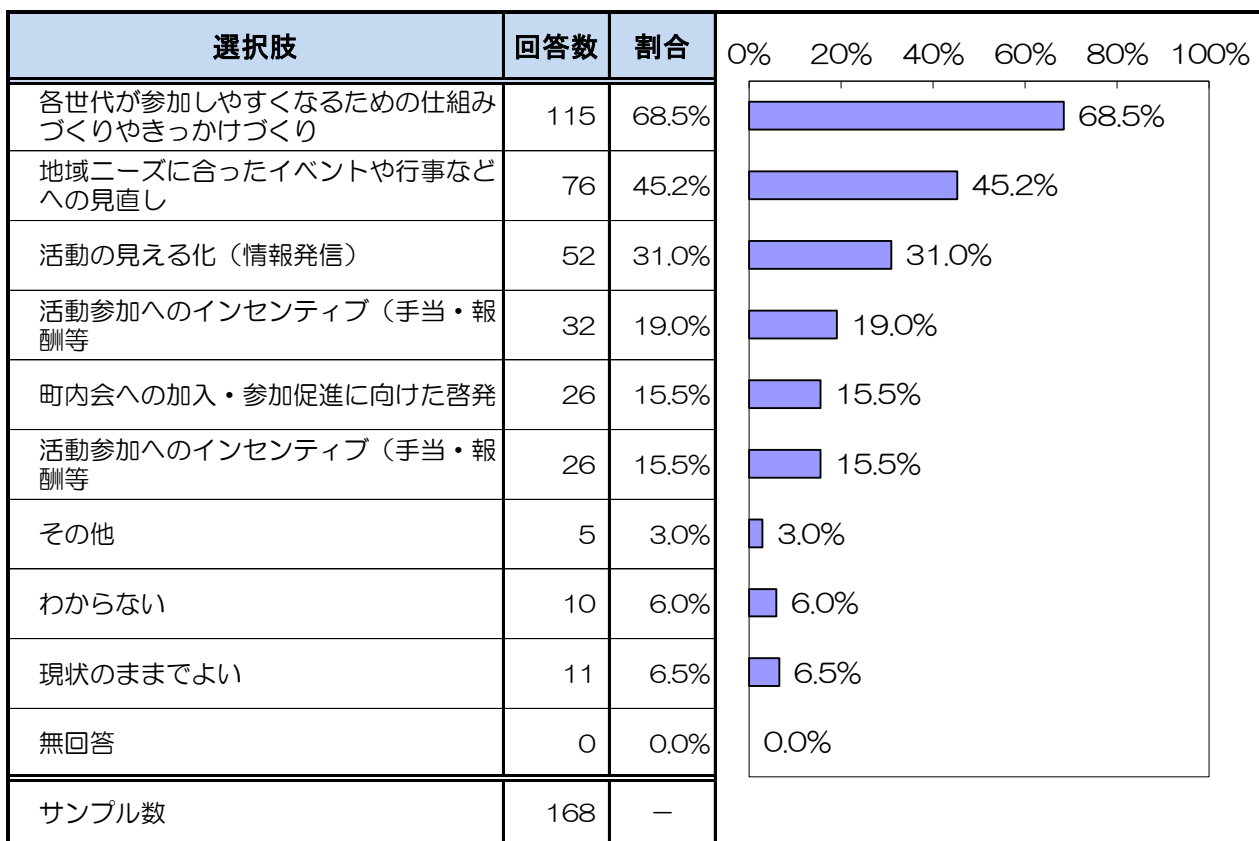


◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

- ・繋がりなど、大切な部分があるのは承知している。町内会役員の方が、昔からこうだ！と柔軟性がなく、何十年も前からの行事を頑なに継続しようとしている。共働き世帯も増え、家族形態も変化した中で。適度に活動も変化していかなければ、苦痛でしかない。

問 34 問28で「1. 加入している」とお答えした方にお伺いします。今後、町内会活動を継続していくために、必要なことは何だと思いませんか。
(3つまで)

「各世代が参加しやすくなるための仕組みづくりやきっかけづくり」が 68.5%と最も高く、次いで、「地域ニーズに合ったイベントや行事などへの見直し」の 45.2%、「活動の見える化(情報発信)」の 31.0%の順となっています。



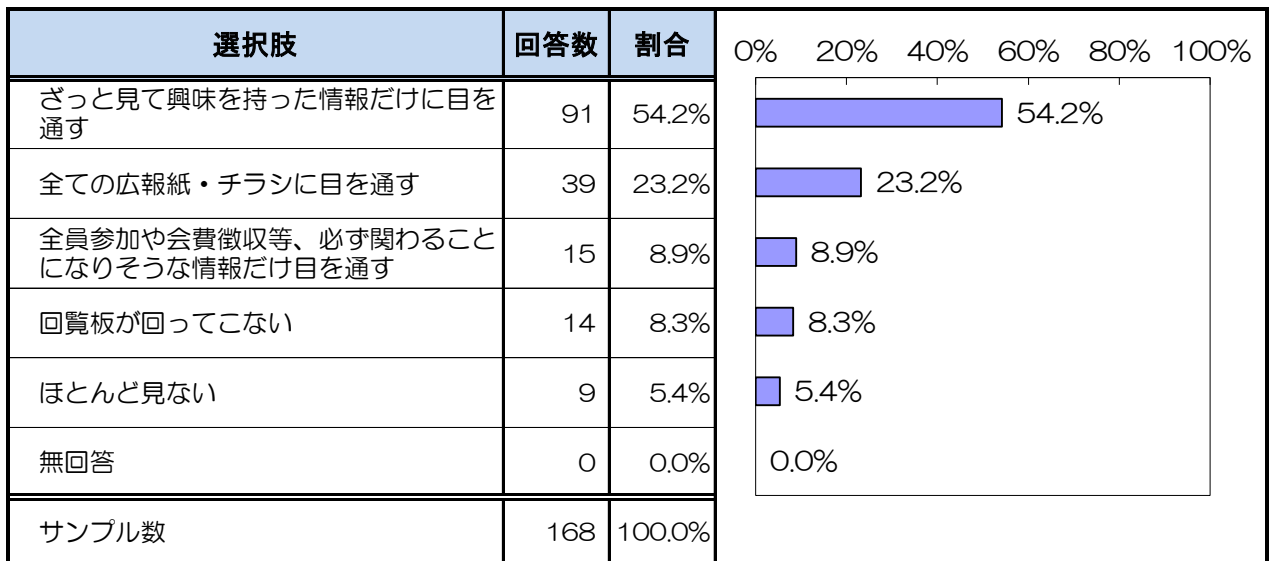
◆その他の回答(一部抜粋・原文まま)

- ・どこも、共働きの多くなり忙しくて町内活動は控えたい。
- ・町内会の必要性、活動の目的の明確化。

問 35 問28で「1. 加入している」とお答えした方にお伺いします。回覧板が回ってきたとき、広報紙やチラシをどの程度見ますか。

(ひとつだけ)

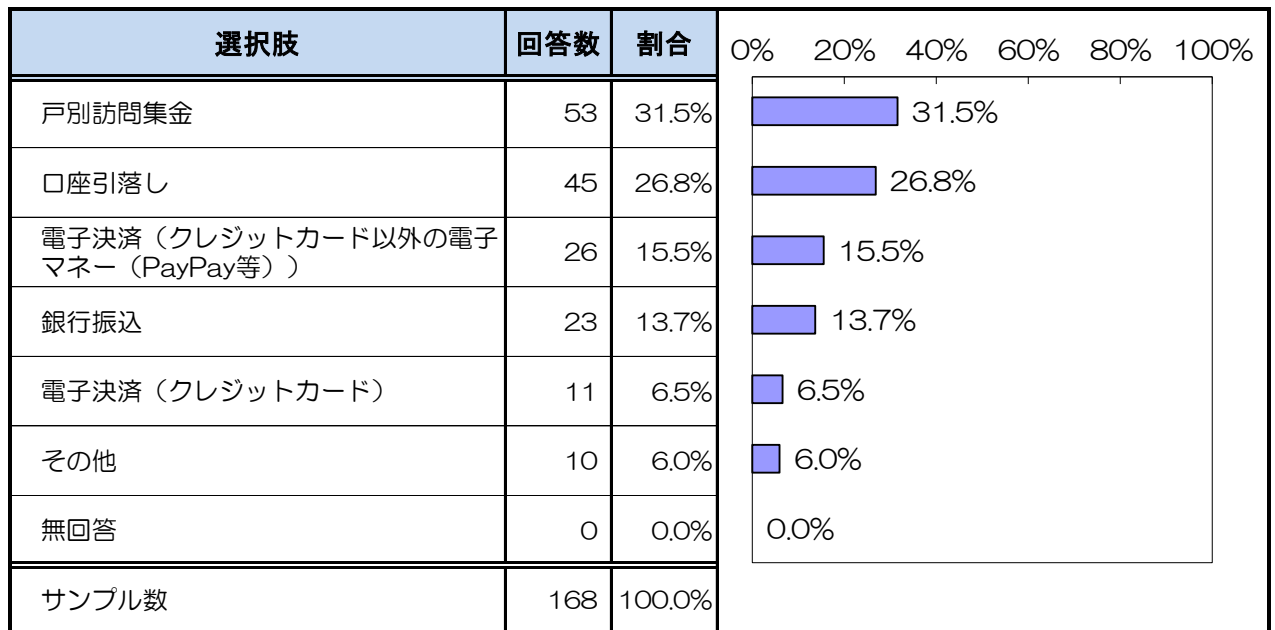
「ざっと見て興味を持った情報だけに目を通す」が 54.2%と最も高く、次いで、「全ての広報紙・チラシに目を通す」の 23.2%、「全員参加や会費徴収等、必ず関わることになりそうな情報だけ目を通す」の 8.9%の順となっています。



問 36 問28で「1. 加入している」とお答えした方にお伺いします。今後、町内会費の徴収方法として最も理想だと思える方法を教えてください。

(単数回答)

「戸別訪問集金」が 31.5%と最も高く、次いで、「口座引落とし」の 26.8%、「電子決済（クレジットカード以外の電子マネー（PayPay等）」の 15.5%の順となっています。

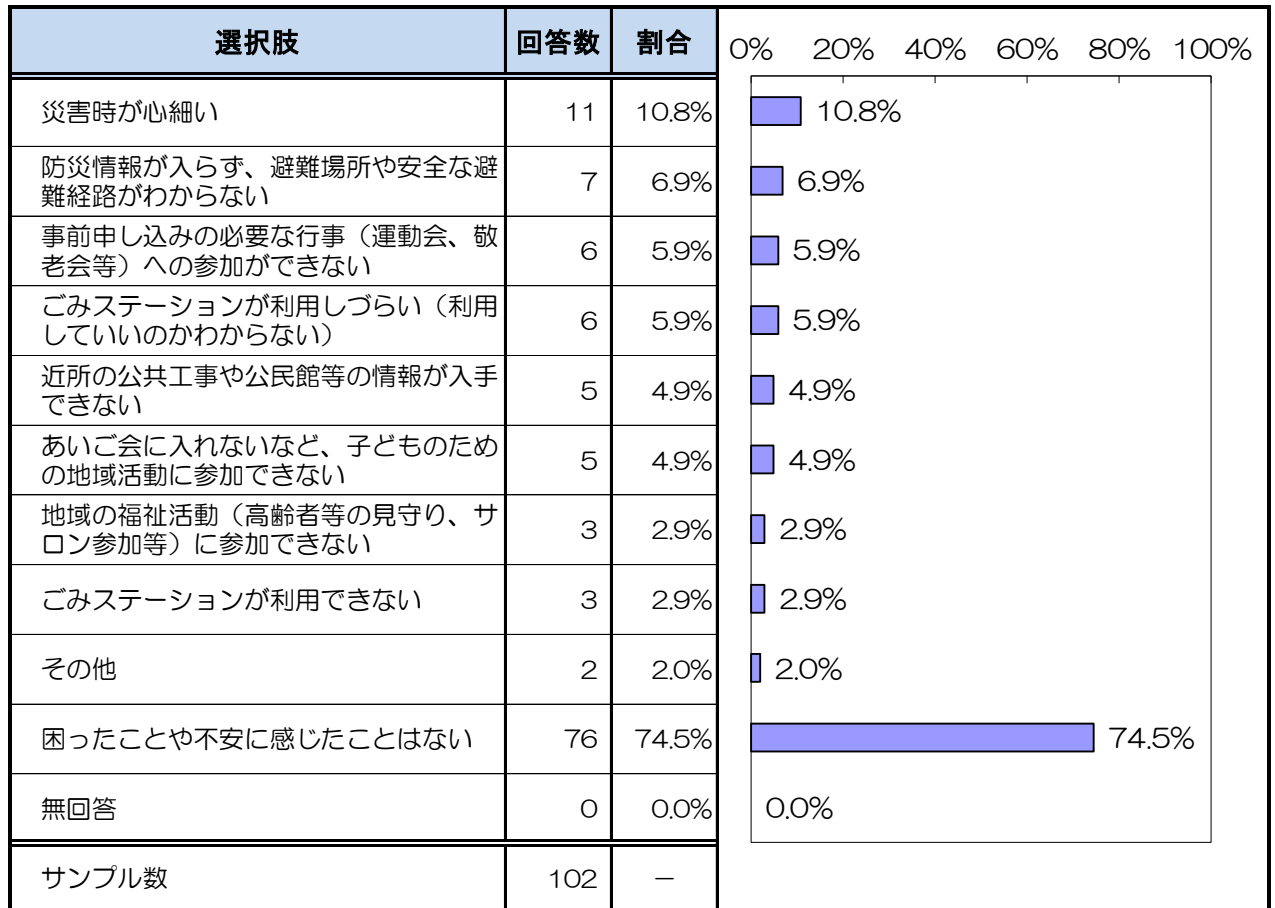


◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

- ・高齢者と若い人では、意見が分かれると思うので。集金と、口座引き落とし、電子決済など選択できたらより良い。
- ・引っ越しきて班長になり戸別訪問で近所の方を知ることができたので良かったと思います。ただ何度も訪問しても留守の一人暮らしの若い男性の方の集金は大変でした。
- ・給付金等からの差引

問 37 問28で「2. 加入していない」とお答えした方にお伺いします。あなたは町内会に加入していないことで困ったこと・不安に感じたことがありますか。(3つまで)

「困ったことや不安に感じたことはない」が74.5%と最も高く、次いで、「災害時が心細い」の10.8%、「防災情報が入らず、避難場所や安全な避難経路がわからない」の6.9%の順となっています。



◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

- ・町内会に加入するという制度にあったことがないのでわからない。

問 38 地域とのつながりや町内会の活動について思うことなど、ご意見等ございましたら、自由にご記入ください。

◆回答一覧（一部抜粋・原文まま）

・町内会活動への参加や町内会への加入に関するについて

回答内容	性別	年代	地域
子どもたちや年配、一人暮らしの方等地域の人達が声掛けし安否確認のためにも必要かと。みんなのゴミステーション、街灯等。そのためにも町内会に加入を。	女	50 歳代	吉田

・町内会の運営について

回答内容	性別	年代	地域
コロナ渦の中、人との交流もさらに疎遠になっています。町内会の有無や在り方も考える時期にきていると思います。	女	60 歳代	谷山
地域とのつながりや町内会の活動は居住地域の美化や治安の維持に必要だと思いますが、若い世代が参加しにくい時間帯の活動などが多いと思います。時間を分けたり日にちを分けたりの工夫が必要なのではと思います。	女	40 歳代	谷山